

平成 24 年度長崎市観光動向調査 分析報告書

平成 25 年 1 月



長崎市経済局文化観光部観光政策課

目次

I. 調査概要	1
II. 要約	3
III. 分析結果	5
【属性】	5
【旅行スタイル】	7
【日程】	11
【訪問（予定）先と訪問回数】	15
【まち歩きの有無や祭り・行事の認知度】	26
【市内観光に対する要望と「食」「土産」の傾向】	28
【長崎市を旅行先に決めた理由・目的】	33
【1人あたりの旅行費用】	34

※本報告書の各図表では、サンプル数が少ない「沖縄」と「海外」を除外。

I. 調査概要

【目的】

本調査の目的は、長崎市を訪れた観光客に対して直接アンケートを実施し、彼らの旅行形態や意識などを調査、その分析結果を基本データとして、長崎市の観光振興に活用していくことにある。

【場所】

「グラバー園」「原爆資料館」「かもめ広場」「出島」の4カ所

【対象者】

上記施設を訪れた市民・修学旅行生以外の観光客

【調査方法】

長崎市による質問用紙を用いた面接聞き取り方式

【期間】

平成24年11月23日（金）、24日（土）、25日（日）の3日間

【回答数】

合計1,577件 うち有効回答1,442件

なお、アンケートは、グラバー園と原爆資料館で900件、かもめ広場と出島において600件を目安として、長崎市により実施されている。

(件)

調査場所	11月23日	11月24日	11月25日	合計
グラバー園	146	113	165	424
原爆資料館	176	202	205	583
出島	106	116	121	343
かもめ広場	32	40	20	92
合計	460	471	511	1,442

【項目】

- (1) 属性

- (2) 旅行スタイル
 - 目的
 - 形態
 - 情報源
 - 手配

- (3) 日程
 - 日程（日帰り、もしくは宿泊）
 - 市内での宿泊数

- (4) 訪問（予定）先と回数
 - 長崎市以外の訪問（予定）地
 - 長崎市に入るまでの交通手段
 - 来訪回数
 - 長崎市内の訪問（予定）先
 - 「グラバー園」「出島」「原爆資料館」「長崎歴史文化博物館」「稲佐山」「軍艦島」への訪問回数

- (5) まち歩き観光への参加の有無や、祭り・行事の認知度
 - まち歩き（長崎さるく）体験の有無
 - 「ランタンフェスティバル」「帆船まつり」「ペーロン」「みなとまつり」「精霊流し」「おくんち」の認知度

- (6) 長崎市観光への要望や「食」「土産」の傾向
 - 市に望むこと
 - 「食」「土産」の傾向

- (7) 1人あたりの旅行費用
 - 旅行全体の費用
 - 市内での消費額

Ⅱ. 要約

【属性】

◆「九州」が3割弱、県別では福岡県がトップ

性別は男女ほぼ同数。年齢層では「20歳代」と「30歳代」、「50歳代」が各々2割台。これに「40歳代」が2割弱で続く。居住地は「九州」が29.6%でトップ、次いで「関東」が24.8%。県別で最も多いのは「福岡県」。

【旅行スタイル】

◆9割近くが「観光」目的。個人・小グループ旅行で全体の9割超

旅行目的は、「観光（が主目的）」が88.3%で「ビジネス」は3.6%。旅行形態は、「団体旅行」の9.3%に対し、「家族旅行」は50.3%。これを含めた個人・小グループ旅行は9割超となった。地域別でも「家族旅行」の割合が高いなか、「団体旅行」の割合が『東北』と『四国』で比較的高い。

◆情報源のトップは「友人・知人の勧め」

旅行の情報源は「友人・知人の勧め」「チラシ・パンフレット」「HP（旅行会社）」の順。『70歳以上』でも「インターネット」の割合が「チラシ・パンフレット」とともに高い。

◆旅行の手配で「旅行会社の店舗の利用」は約3分の1

【日程】

◆旅行全体の日程、宿泊ありが9割超、平均宿泊数は2.0泊

旅行の全日程をみると、「宿泊あり」が9割超。「宿泊あり」の人の宿泊数は1泊及び2泊で8割近くを占め、平均宿泊数は2.0泊。

◆長崎市内における宿泊数は、「1泊」が6割弱、平均宿泊数は1.38泊

長崎市内における宿泊数は、「1泊」58.6%、「2泊」28.0%、「3泊以上」4.8%。一方、「0泊（長崎市での宿泊なし）」は8.6%。「北海道」で2泊以上の割合が増加。

【訪問(予定)先と訪問回数】

◆長崎市以外の訪問（予定）先、佐世保市と福岡県が中心

長崎市以外の訪問（予定）先は、県内では「佐世保市（ハウステンボス含む）」が25.5%とトップ。県外では「福岡県」が16.5%と最も多い。

◆交通手段は、「JR」がトップ

長崎市に入るまでの交通手段は、「JR」27.9%、「自家用車」24.9%、「飛行機+バス」21.4%の順。特に『中部』と『近畿』で「JR」がトップ。

◆長崎市への来訪回数は、「初めて」が3割超

長崎市への来訪回数は「初めて」（38.6%）がトップ。「2回」以上のリピーター比率は61.4%。

◆訪問割合が高い「グラバー園」「大浦天主堂」「原爆資料館・平和公園」

長崎市内での訪問（予定）先は、「グラバー園」が 75.9%で最多。以下「大浦天主堂」「原爆資料館・平和公園」「出島」「中華街」の順。「稲佐山」が順位を上げてきている。

【まち歩きの有無】

◆まち歩き観光体験の割合は 5 割超

長崎市で「自由にまち歩き」（44.9%）と「ガイド付きまち歩き」（5.4%）を体験した人は合わせて 50.3%。

【祭りや行事の認知度】

◆高い認知度を誇る「長崎くんち」

長崎市の祭りや行事で認知度が高いのは「長崎くんち」の 74.9%。続いて「精霊流し」53.6%、「ランタンフェスティバル」が 50.8%。

【市内観光に対する要望と「食」「土産」の傾向】

◆長崎市観光に望むことは、「観光地までの案内板などの整備」

長崎市観光に望むことは、「観光地までの案内板などの整備」（20.5%）、「交通の便を良くする」（19.9%）、「観光地周辺の駐車場の整備」（18.2%）が上位。

◆『食』では「ちゃんぽん・皿うどん等の中華料理」が圧倒的人気

長崎市で食べた（食べる）料理について尋ねたところ、「ちゃんぽん・皿うどん等の中華料理」が 86.3%と、他を圧倒。

◆『土産』では「カステラ」の購入が 8 割超

長崎市で購入したいお土産は、「カステラ」が 84.5%と最も多い。

【長崎市を旅行先に決めた理由・目的】

◆旅行先に選んだ理由は、「観光施設巡り」がトップ

長崎市を旅行先に決めた理由・目的は、「観光施設巡り」が最も多く 45.6%。

【1 人あたりの旅行費用】

◆旅行全体での 1 人あたりの費用は、日帰り 15,072 円、宿泊 56,839 円

観光目的で来訪した人の旅行全体の費用は 1 人あたり平均で 52,967 円。このうち「日帰り」旅行 15,072 円、「宿泊」旅行 56,839 円。

◆長崎市における消費額は平均 30,362 円

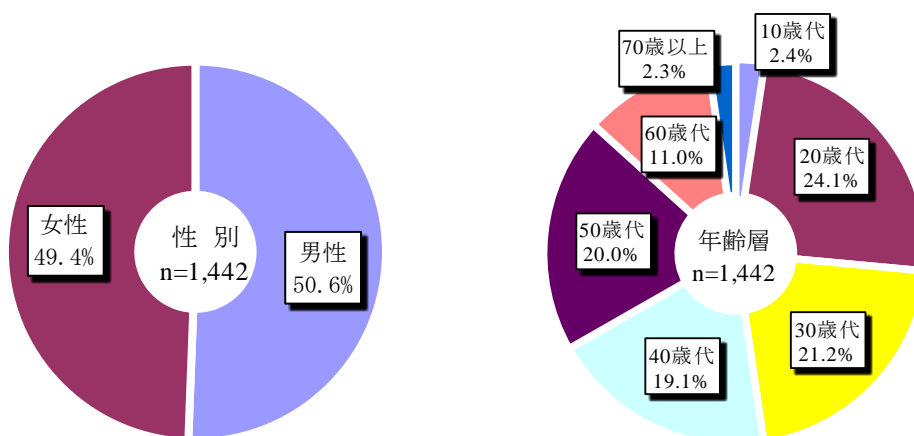
長崎市内における消費額は、1 人あたり平均 30,362 円と、平成 23 年の調査（26,035 円）を上回った。内訳は「宿泊代」10,975 円、「飲食代」6,138 円、「おみやげ・買物代」6,094 円、「入場・観覧料」2,288 円、「交通費」1,934 円など。宿泊数別では、「0 泊（日帰り）」13,828 円、「1 泊」28,123 円、「2 泊」36,192 円、「3 泊以上」52,418 円。

Ⅲ. 分析結果

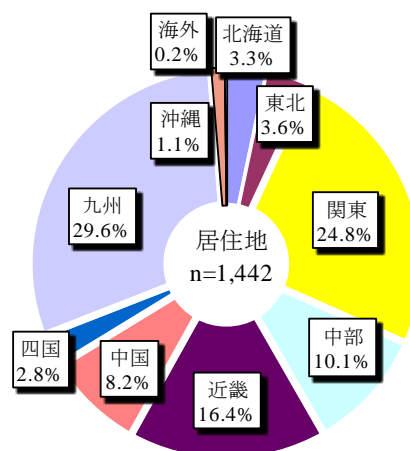
【属性】

性別をみると、「男性」が50.6%、「女性」が49.40%。

年齢層別では、「20歳代」(24.1%)と「30歳代」(21.2%)、「50歳代」(20.0%)が2割台、これに「40歳代」(19.1%)が続く。



居住地・ブロック別では、「九州」が29.6%とトップ。これに「関東」が24.8%で続き、以下「近畿」(16.4%)、「中部」(10.1%)となっている。



(n=1,442)

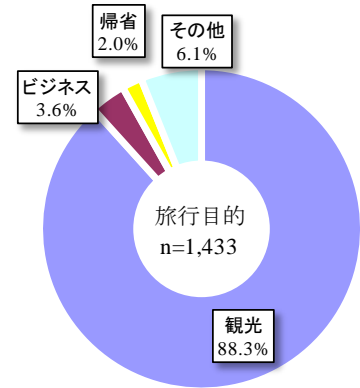
さらに居住地を都道府県別に細分化してみると、「福岡県」(13.2%)と「東京都」(10.1%)が群を抜いており、以下「大阪府」(6.2%)、「神奈川県」(4.5%)、「兵庫県」(4.4%)、「千葉県」(4.3%)、「埼玉県」(4.2%)、「広島県」(3.7%)、「北海道」と「大分県」が(3.3%)の順。

都道府県名	回答者数 (件)	回答割合 (%)
北海道	47	3.3
青森	4	0.3
岩手	5	0.3
宮城	21	1.5
秋田	8	0.6
山形	2	0.1
福島	12	0.8
茨城	11	0.8
栃木	12	0.8
群馬	2	0.1
埼玉	60	4.2
千葉	62	4.3
東京	145	10.1
神奈川	65	4.5
新潟	14	1.0
富山	10	0.7
石川	8	0.6
福井	4	0.3
山梨	7	0.5
長野	15	1.0
岐阜	11	0.8
静岡	16	1.1
愛知	60	4.2
三重	12	0.8
滋賀	4	0.3
京都	46	3.2
大阪	90	6.2
兵庫	63	4.4
奈良	17	1.2
和歌山	4	0.3
鳥取	7	0.5
島根	6	0.4
岡山	10	0.7
広島	54	3.7
山口	41	2.8
徳島	6	0.4
香川	6	0.4
愛媛	23	1.6
高知	5	0.3
福岡	190	13.2
佐賀	33	2.3
長崎	46	3.2
熊本	37	2.6
大分	47	3.3
宮崎	43	3.0
鹿児島	32	2.2

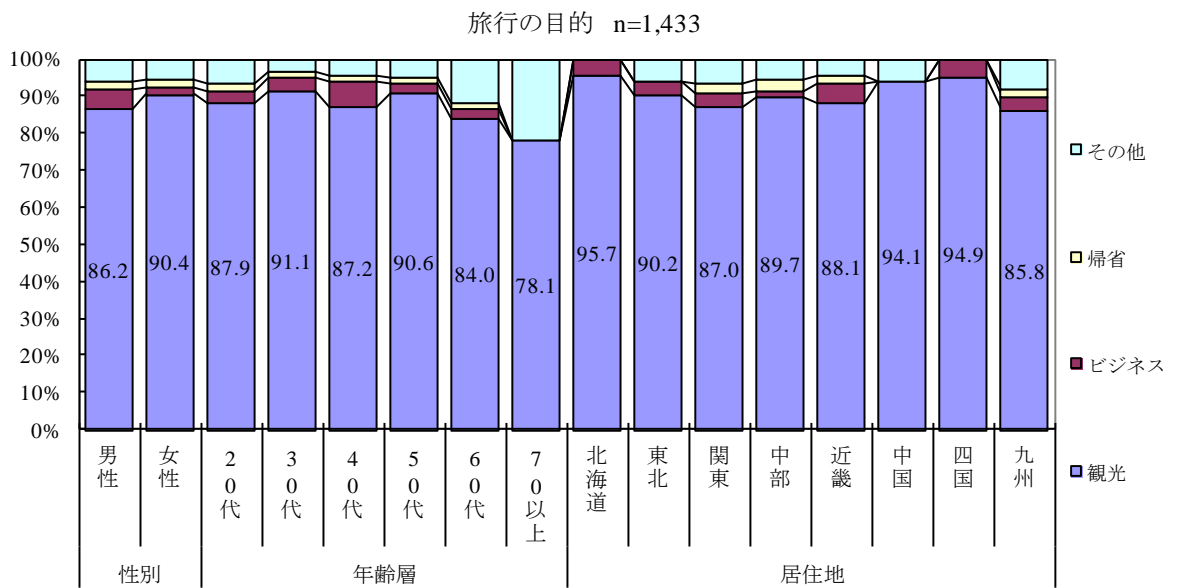
【旅行スタイル】

○旅行目的

旅行目的は「観光（が主目的）」が88.3%と約9割を占めており、「ビジネス」は3.6%、「帰省」2.0%であった。



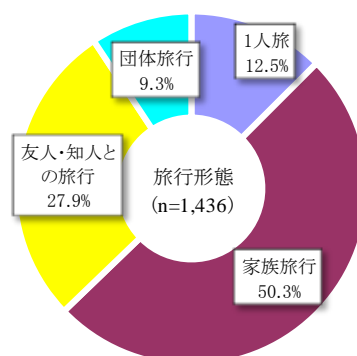
属性別にみると、女性が男性より「観光」の割合が高めとなっている。年齢層別では『40代』で「ビジネス」の割合がやや高い。居住地別では『北海道』と『四国』で「ビジネス」の割合がやや高い。



○旅行形態

旅行形態をみると、「家族旅行」が50.3%と5割を超え、これに「友人・知人との旅行」(27.9%)、「団体旅行」(9.3%)、「一人旅」(12.5%)が続く。

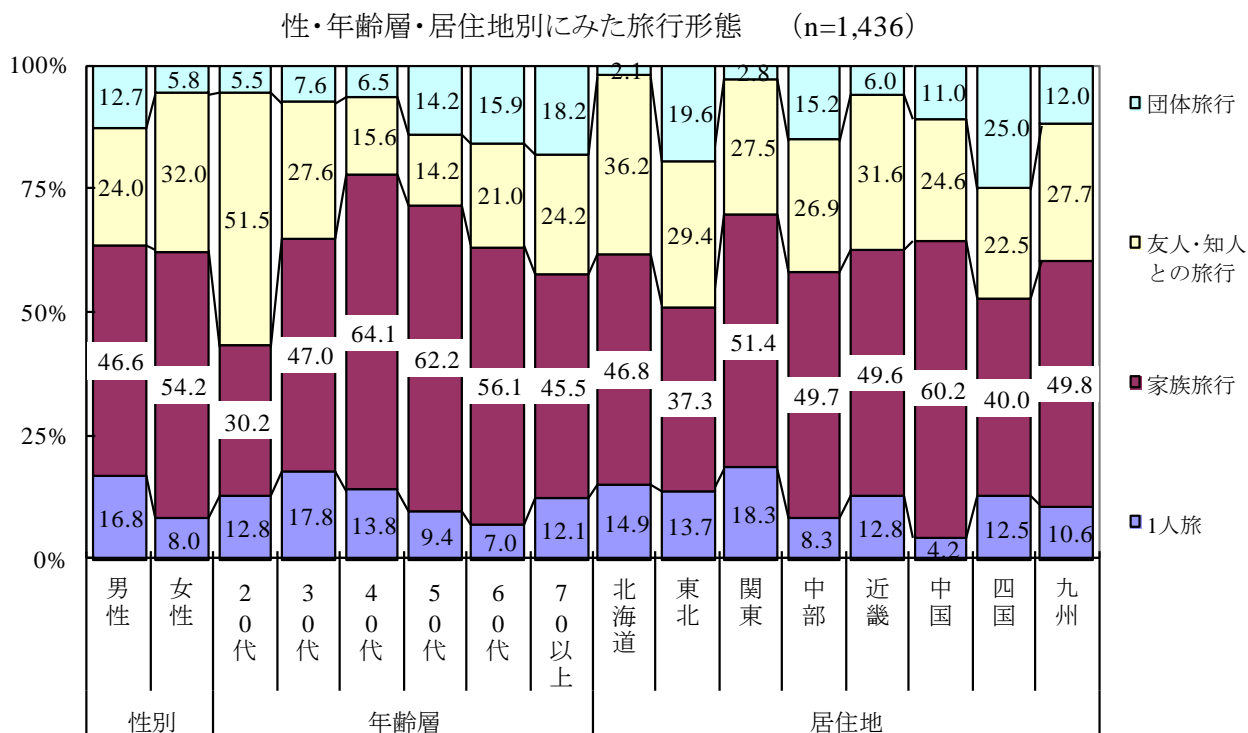
このうち、平成14年の調査以降7～8割台で推移し、個人旅行が主流であることを示してきた「家族旅行」「友人・知人との旅行」「一人旅」を合わせた個人・小グループ旅行が、今回初めて90.7%と9割を超えている。



性別でみると、男性は女性に比べ「団体旅行」の割合が高く、「家族旅行」「友人・知人との旅行」において女性が男性よりも割合が高い。

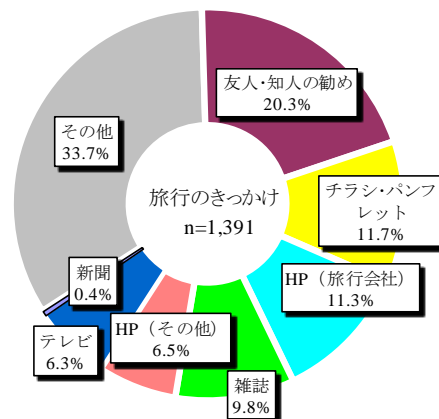
年齢層別では、『20代』で「友人・知人との旅行」が51.5%と半数以上を占めており、『30代』から「家族旅行」の割合が高くなっている。一方、「団体旅行」の割合が『50代』から高くなる傾向が見受けられる。

居住地別にみると、ほとんどの地域で「家族旅行」の割合が高いなか、「団体旅行」の割合が『東北』と『四国』で、「一人旅」の割合が『関東』以北で比較的高い。



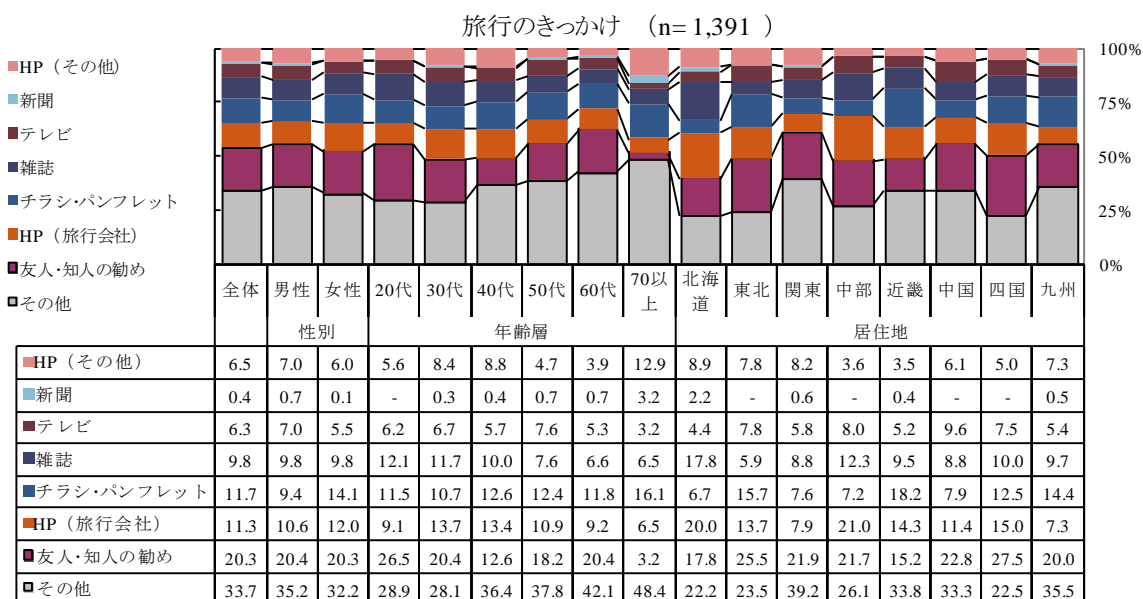
○旅行のきっかけとなった情報源

旅行のきっかけとなった情報源をみると、「友人・知人の勧め」が20.3%で最も多く、これに「チラシ・パンフレット」(11.7%)、「HP(旅行会社)」(11.3%)が続く。「その他」では、《特にない》《来てみたかったから》との回答が多いなか、長崎県では2003年以來2回目の開催となったJR西日本主催のTVアニメ連動企画《名探偵コナンミステリーツアー》とした回答も見られた。



前回の調査(平成23年)結果と比べると、今回調査のインターネット情報源(=HP~ホームページ~)調査は『HP(旅行会社)』『HP(その他)』を合わせて18.2%となり、前回調査の『インターネット』(17.9%)とほぼ変わらず、またその他の項目についても前回とほぼ同じ割合であった。

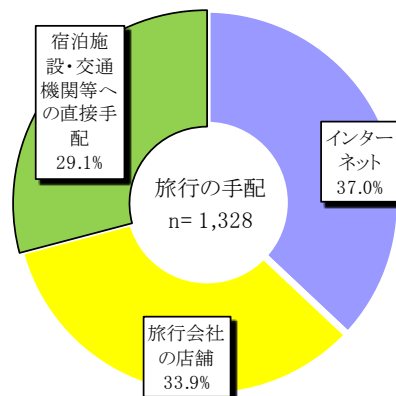
次に、属性別にみると、性別では男女とも「友人・知人の勧め」の割合が最も高い。年齢層別では、『30代』『40代』で「インターネット」「HP(旅行会社)」「HP(その他)」の合計、以下同)の割合が高く、『70以上』でも「その他」(48.4%)が半数近くを占めるなか、「チラシ・パンフレット」(16.1%)とともに高い。また、地域別にみると『北海道』と『中部』で「インターネット」の割合が高く、『近畿』では「インターネット」(17.8%)を僅かに抑えて「チラシ・パンフレット」(18.2%)の割合が他地域と比べて高い。



○旅行の手配

旅行の手配については、「インターネット（楽天やYahoo!、旅行会社のHPなど）」「旅行会社の店舗」「宿泊施設・交通機関等への直接手配」で約1/3ずつとなっている。

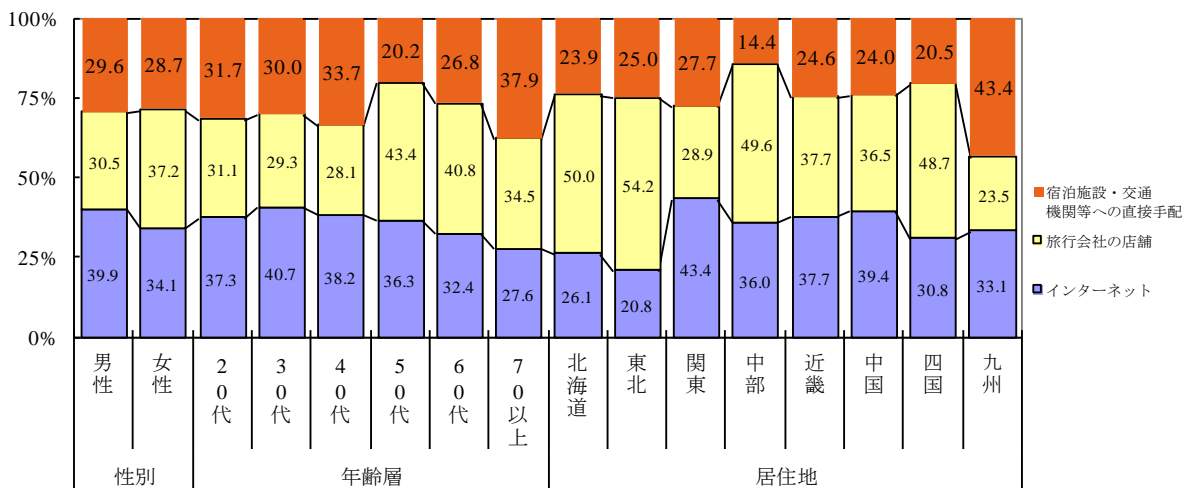
前回調査（平成23年）との比較では、「旅行会社の店舗」の割合は変わらないが、3割を超えていた「宿泊施設・交通機関等への直接手配」が2割台へ低下しており、「インターネット」の割合が前回調査（34.6%）→今回調査（37.0%）と増している。



これを属性別にみると、『男性』は「インターネット」の割合が、『女性』は「旅行会社の店舗」の利用割合が高い。

年齢層別でみると、「インターネット」の割合が高年齢になるほど低くなる傾向にあるなか、「直接手配」の割合が『70歳以上』で高い。居住地別では、「旅行会社の店舗」の利用が『東北』では5割を超えており、『北海道』と『中部』『四国』でも半数、もしくは半数近くを占めている。また、『関東』で「インターネット」の割合が、『九州』では「直接手配」の割合が高い。

旅行の手配 (n=1,328)



【日程】

○旅行全体の日程

旅行の全日程をみると、「宿泊する」とした人が9割超。

属性別では、「日帰り」は『20代』と『40代』、『70歳以上』での割合が高く、居住地別では『九州』の27.1%が高い。

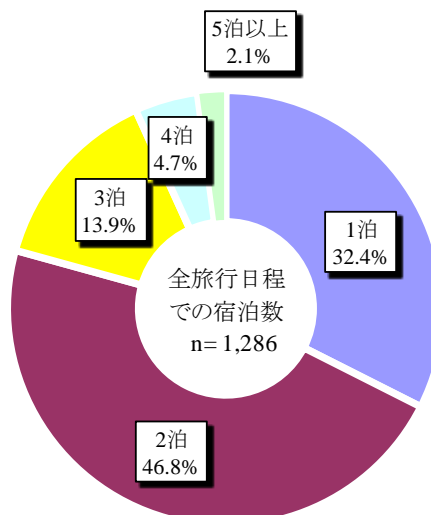
宿泊者の平均泊数は、平成18年調査以来となる2.0泊となった。属性別では『70代以上』で2.5泊、居住地別では『北海道』で3泊に迫っている。

旅行全日程での宿泊の有無と宿泊者の平均泊数(n= 1,431)

属性		日帰り (%)	宿泊 (%)	宿泊者の平均泊数 (泊)
全体		9.4	90.6	2.0
性別	男性	8.8	91.2	2.0
	女性	10.0	90.0	2.0
年齢層	20代	10.1	89.9	1.9
	30代	6.9	93.1	2.0
	40代	12.0	88.0	1.9
	50代	8.7	91.3	2.1
	60代	7.1	92.9	2.1
	70以上	15.2	84.8	2.4
居住地	北海道	-	100.0	2.8
	東北	2.0	98.0	2.4
	関東	2.6	97.4	2.3
	中部	-	100.0	2.3
	近畿	0.9	99.1	1.9
	中国	6.8	93.2	1.7
	四国	-	100.0	2.0
	九州	27.1	72.9	1.4

宿泊数別にみると、「2泊」が最も多く46.8%、次いで「1泊」の32.4%。

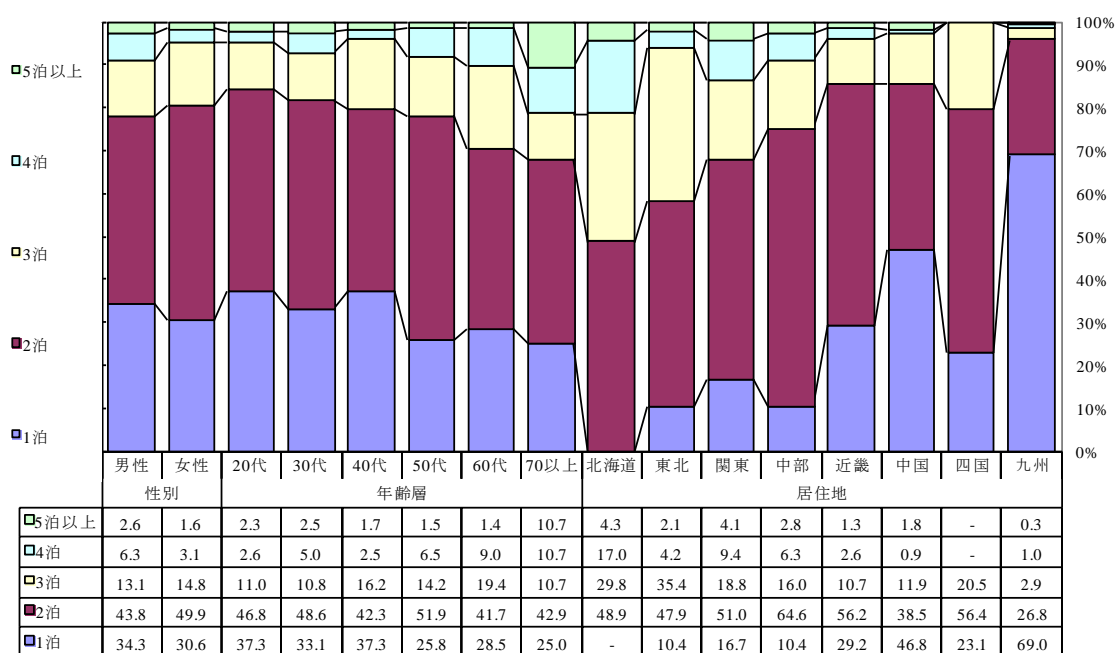
1泊は、前年（平成23年：38.3%）と平成22年（36.1%）ともに3割台だが、平成21年（46.9%）比では14.5ポイント減少した。4泊（4.7%）は前年（同4.7%）と変わらず、また平成22年（4.3%）も4%台だが、平成21年（8.7%）比では4ポイント減少している。2泊は、前年（同40.6%）と平成22年（41.2%）比それぞれ5、6ポイント上昇しているが、平成21年（31.5%）比では15.3ポイントの大幅増となった。一方、3泊は前年（同14.6%）比0.7ポイント減で、平成22年（18.3%）比では4.4ポイントの減少、しかし平成21年（13.0%）比では0.9ポイント増加した。



性別では、男性が3泊以上の長期宿泊割合が多い。年齢層別では、各年代とも1、2泊に集中しているなか、『70以上』で「5泊以上」の割合が多い。また、『50代』で2泊の割合が5割を超えている。

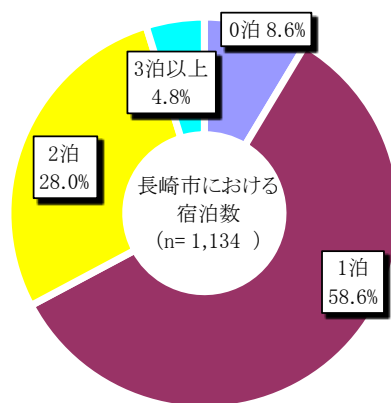
居住地別では、『九州』と『中国』で「1泊」の割合が高く、それ以外は「2泊」が多い。九州から遠くなるにつれ、「3泊」以上の割合が高く、『東北』では、「3泊」の割合が3割を超えている。

全旅行日程での宿泊数 (n=1,286)



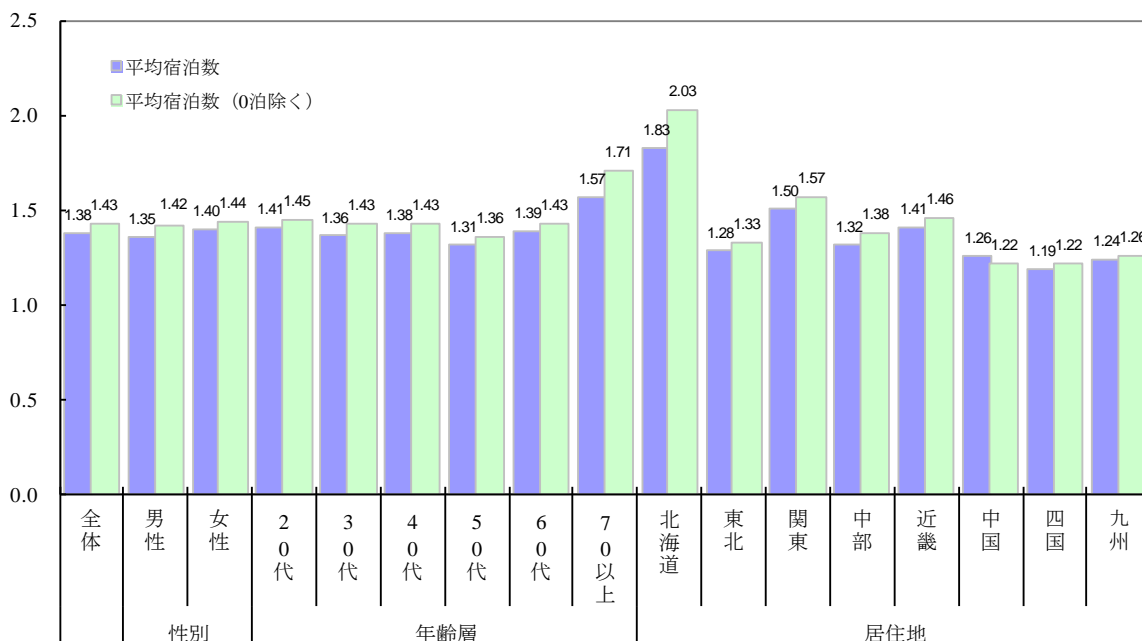
○長崎市内における宿泊数

長崎市内における宿泊数をみると、最も多い「1泊」で前年（平成23年：62.4%）調査と平成22年調査（62.9%）、平成21年調査（62.5%）と60%台で推移していたが、本調査では58.6%と、平成18年調査（50.0%）以来の50%台となっている。一方、「2泊」（28.0%）では前年（同21.3%）を6.7ポイント上回ったが、「3泊以上」（4.8%）で前年（同5.4%）を0.6ポイント下回り、「0泊」（8.6%）も前年（同10.9%）比2.3ポイント減少した。



長崎市内での平均宿泊数は、長崎市内0泊を含むと1.38泊、長崎市内0泊を除いて1.43泊であった。平成21年（1.14泊、1.32泊）、平成22年（1.19泊、1.40泊）、平成23年（1.32泊、1.45泊）と、『長崎市内0泊を除く』では落ち着いてきたが、『長崎市内0泊を含む』は徐々に伸びてきている。

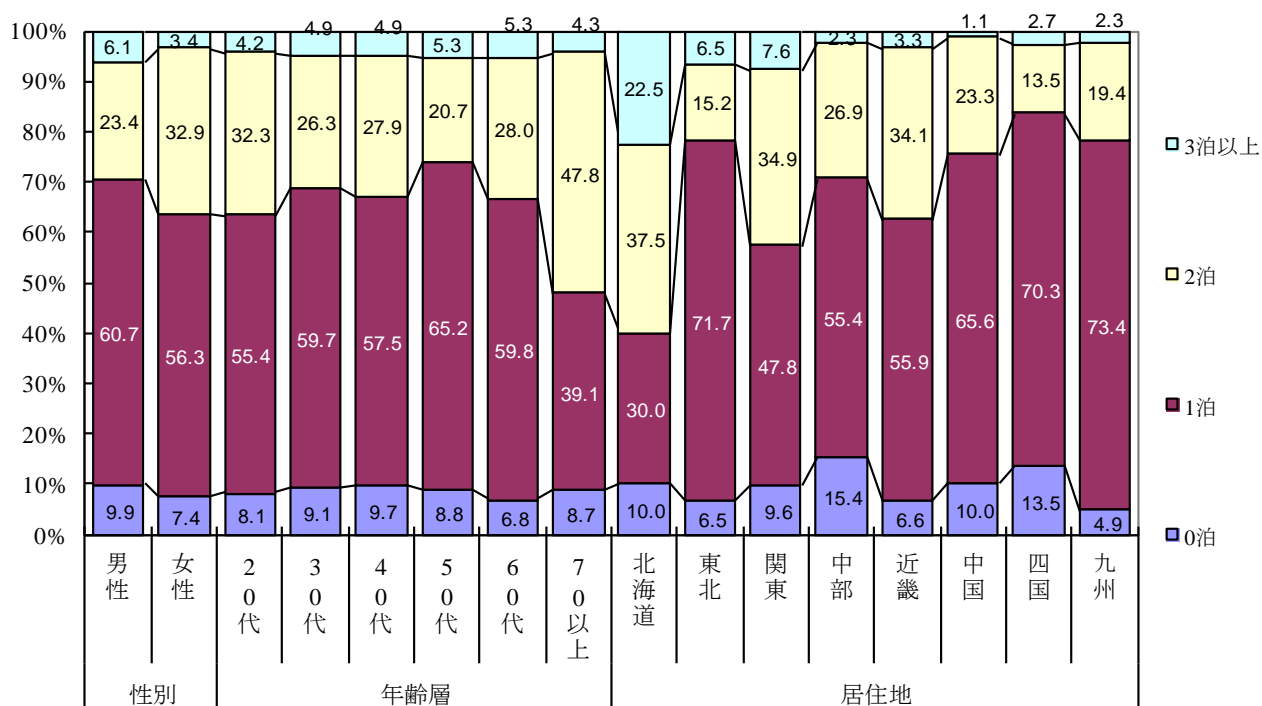
泊 長崎市内での平均宿泊数 n=1,134



長崎市内における宿泊数は、男性に比べ女性の方が2泊以上の割合が高く、年齢層別では、「70代以上」の高年齢層で他の年代と比べて2泊以上の割合が高い。

居住地別では、『北海道』で2泊以上の割合が60%と前年（平成23年：34.8%）比大幅増となっているが、これは、2泊の割合が37.5%と他地域比トップであることに加え、昨年8.7%であった3泊以上の割合が本調査では22.5%と大幅に増加したことに起因している。また、『四国』では2泊以上が16.2%と、前年調査（同16.7%）比横這いとなっており、大河ドラマ「龍馬伝」の影響が色濃く反映された平成22年調査（34.9%）結果と比較して、その熱気も落ち着いてきていることがうかがえる。

長崎市内における宿泊数 (n= 1,134)

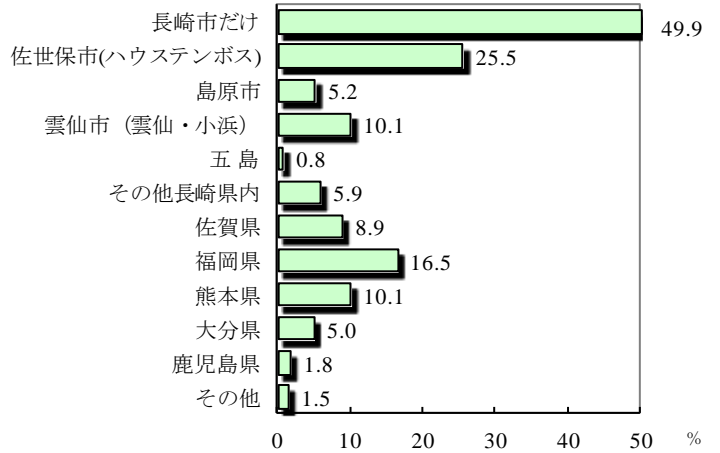


【訪問(予定)先と訪問回数】

○長崎市以外の訪問地・訪問予定地

長崎市以外の訪問地(訪問予定地を含む)をみると、「長崎市だけ」との回答が49.9%(平成23年調査:41.0%)と約半数となり、最も多い。他の訪問先として県内ではハウステンボスを含む「佐世保市」が25.5%(同18.7%)、「雲仙市(雲仙・小浜)」が10.1%(同10.0%)。県外では「福岡県」が16.5%と、主要ルートとなっている。

長崎市以外の訪問(予定)先(複数回答、n=1,422)



属性別をみると、年齢層で「長崎市だけ」の訪問割合が『50代』と『60代』を除く層で5割を超えている。また、居住地別でも『近畿』以南では4割を超えており、特に『九州』では7割台と高い。

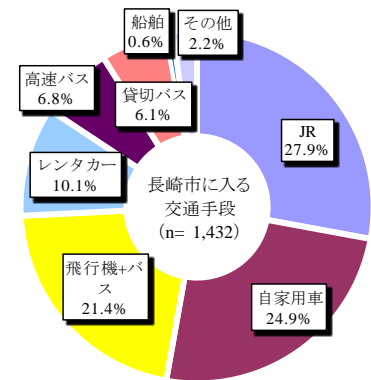
長崎市以外の訪問先をみると、『70歳以上』を除く世代で「ハウステンボスを含む佐世保市」の割合が最も高く、『20代』では「福岡県」の割合が2割を超えている。また、『70歳以上』では「ハウステンボスを含む佐世保市」とともに「熊本県」の割合が高い。居住地別では、『東北』と『九州』を除くほとんどの地域で県内では「ハウステンボスを含む佐世保市」が、県外では『中部』以北で「福岡県」の割合が高い。また『東北』で「大分県」、『四国』で「雲仙市」のウエイトがそれぞれ高い。

長崎市以外の訪問先・予定先(複数回答、n=1,422)

属性		長崎市だけ	佐世保市(ハウステンボス)	島原市	雲仙市(雲仙・小浜)	五島	その他長崎県内	佐賀県	福岡県	熊本県	大分県	鹿児島県	その他
全体		49.9	25.5	5.2	10.1	0.8	5.9	8.9	16.5	10.1	5.0	1.8	1.5
性別	男性	48.1	23.4	6.1	11.3	0.4	6.3	9.7	19.6	11.4	4.9	2.1	1.8
	女性	51.8	27.7	4.3	9.0	1.3	5.5	8.1	13.2	8.8	5.1	1.6	1.3
年齢層	20代	52.0	33.3	3.2	6.7	0.3	5.8	6.7	21.1	8.5	4.7	1.8	1.5
	30代	51.5	29.0	4.3	10.6	1.0	4.3	7.6	14.5	8.3	2.6	2.3	1.0
	40代	53.5	19.0	10.3	11.0	1.1	5.9	10.3	13.2	7.3	1.8	0.7	0.7
	50代	43.3	20.1	5.3	12.3	0.4	4.9	11.3	18.7	14.4	8.1	2.8	2.5
	60代	43.8	19.6	3.3	12.4	2.6	9.2	11.1	15.0	15.0	9.2	2.0	3.3
	70以上	54.5	18.2	6.1	12.1	-	6.1	6.1	9.1	18.2	15.2	-	-
居住地	北海道	31.1	35.6	4.4	8.9	-	8.9	8.9	37.8	11.1	4.4	2.2	4.4
	東北	33.3	11.8	3.9	7.8	-	7.8	21.6	31.4	13.7	15.7	3.9	3.9
	関東	39.5	26.6	6.2	10.5	1.1	7.3	11.9	26.8	15.5	8.5	3.1	2.3
	中部	32.4	31.0	4.8	17.2	1.4	6.2	20.0	31.0	20.7	5.5	3.4	3.4
	近畿	44.9	36.3	5.1	11.1	1.7	5.1	4.3	9.8	9.4	4.7	1.7	0.4
	中国	46.2	29.1	2.6	10.3	-	7.7	8.5	11.1	6.0	4.3	0.9	1.7
	四国	41.0	35.9	17.9	25.6	-	2.6	7.7	12.8	15.4	7.7	2.6	-
	九州	74.2	15.1	4.3	5.5	0.5	4.5	4.1	3.1	1.9	1.0	-	0.5

○長崎市に入る交通手段

長崎市に入るまでの交通手段をみると、「JR」(27.9%)が最も多く、以下「自家用車」(24.9%)、「飛行機+バス」(21.4%)と続いている。このうち21年(19.1%)、22年(22.9%)、23年(25.6%)と増加してきた「飛行機+バス」は減少に転じ、「JR」が22年(15.5%)、23年(21.2%)と増加傾向。一方、10%台が続いていた「貸切バス」は団体旅行の減少傾向もあり、1桁台となった。



性別では、女性で「JR」の割合が高い。また、男性では「自家用車」の割合が最も高いが、「JR」「飛行機+バス」も同程度の割合となっている。年齢層別では、「JR」が『20代』と『50代』、『70歳以上』でトップ。また、『30代』と『40代』では「自家用車」がトップとなっており、『50代』では「JR」と「自家用車」が、『60代』では「JR」と「飛行機+バス」の割合がそれぞれ同程度。居住地別にみると、「JR」が『中部』と『近畿』でトップとなり、『中国』でも「自家用車」の次に割合が高い。これは、飛行機との競合により JR 西日本が九州新幹線直通割引切符を導入した影響も推察される。旅行形態別にみると、『一人旅』では「飛行機+バス」と「JR」の割合がともに高く、『家族旅行』では「自家用車」が、『友人・知人との旅行』では「JR」の割合が高い。また、『団体旅行』では「貸切バス」の割合が圧倒的。

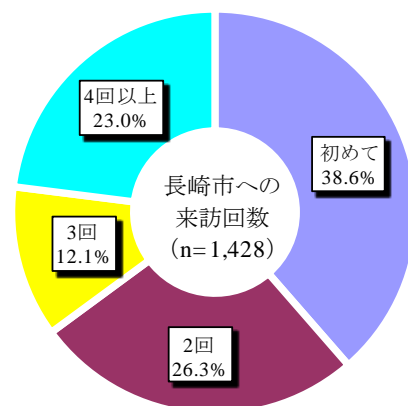
長崎市に入る交通手段 (n=1,432)

(%)

属性		JR	自家用車	飛行機+バス	レンタカー	高速バス	貸切バス	船舶	その他
全体		27.9	24.9	21.4	10.1	6.8	6.1	0.6	2.2
性別	男性	23.6	26.2	22.3	12.0	5.9	8.1	0.3	1.5
	女性	32.4	23.6	20.5	8.2	7.6	4.0	0.8	2.8
年齢層	20代	26.7	23.5	21.4	13.3	9.6	3.5	0.9	1.2
	30代	27.9	29.8	21.6	9.8	4.9	4.6	0.7	0.7
	40代	29.7	32.2	20.3	9.4	4.0	2.5	-	1.8
	50代	24.6	22.8	20.4	9.5	6.3	11.6	0.4	4.6
	60代	32.7	14.1	30.1	7.1	3.2	12.2	-	0.6
	70以上	41.9	3.2	16.1	6.5	6.5	6.5	3.2	16.1
居住地	北海道	12.8	-	55.3	21.3	4.3	2.1	-	4.3
	東北	17.3	9.6	30.8	11.5	11.5	17.3	-	1.9
	関東	18.4	6.8	45.8	17.2	4.8	3.7	-	3.4
	中部	34.7	9.0	22.9	18.8	2.1	8.3	1.4	2.8
	近畿	46.6	11.0	25.4	8.5	4.7	1.7	0.8	1.3
	中国	30.5	47.5	-	1.7	7.6	10.2	-	2.5
	四国	15.4	38.5	5.1	2.6	20.5	15.4	-	2.6
	九州	25.8	51.3	0.9	3.8	9.5	6.6	0.9	1.2
旅行形態	一人旅	30.2	12.8	36.9	5.0	12.8	-	1.1	1.1
	家族旅行	28.8	33.0	18.7	10.9	4.0	1.7	0.6	2.4
	友人・知人との旅行	29.0	22.7	21.9	13.1	9.3	1.5	-	2.5
	団体旅行	14.8	3.9	14.1	3.9	6.3	53.9	1.6	1.6

○長崎市への来訪回数

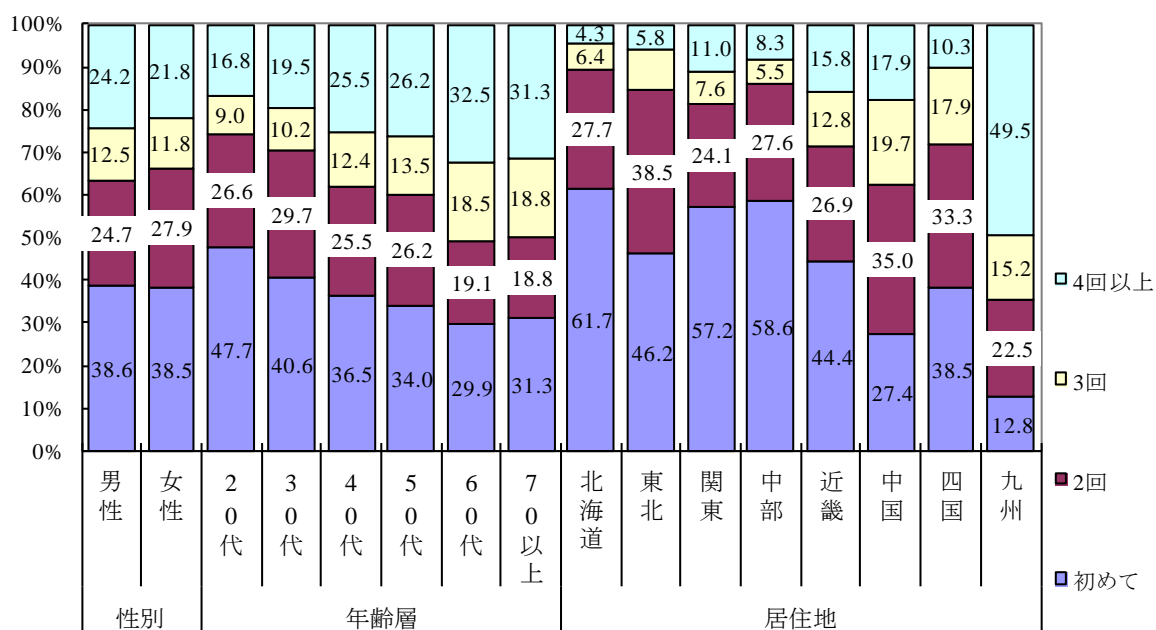
長崎市を訪れた回数（今回の旅行を含む）をみると、「初めて」が38.6%と、前回調査結果（平成23年：36.1%）を2.5ポイント上回った。一方、「2回」以上を合計したリピーター比率が61.4%と、前回調査（同63.9%）を若干下回った。



性別をみると、リピーター率が男女ほぼ同じ（男性61.4%、女性61.5%）である。年齢層別では、『20代』で5割近くの方が「初めて」としており、年齢が上がるにつれ、訪問回数が増加している。

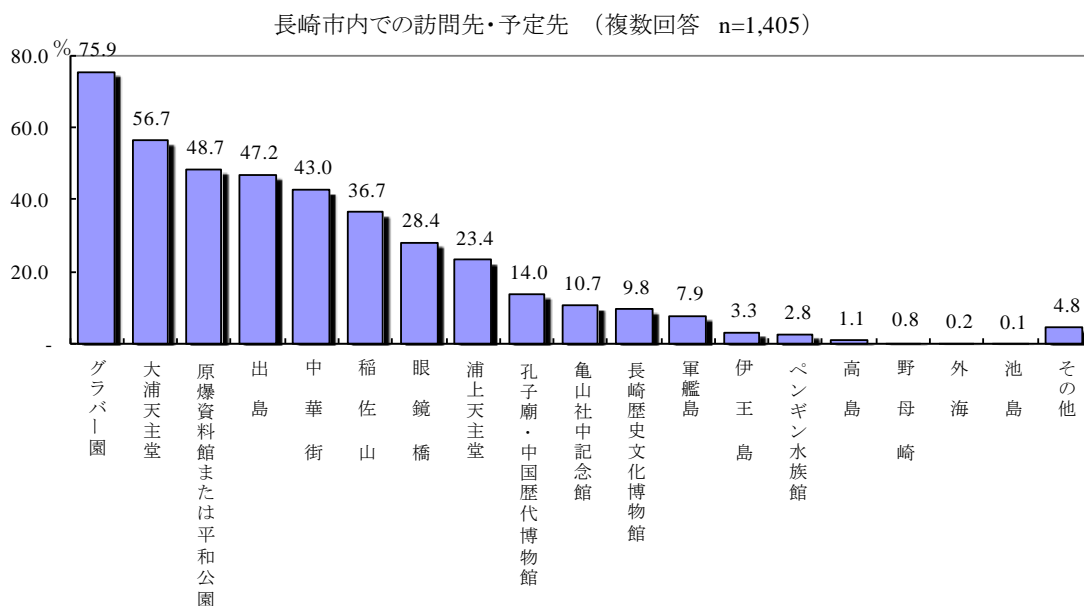
居住地別では、遠方ほど「初めて」の割合が高いなか、『東北』では「2回」の割合も高く、震災の代替需要としての影響も見受けられる。

長崎市への訪問回数 (n=1,428)



○長崎市内の訪問先・訪問予定先（複数回答）

長崎市内での訪問先（訪問予定も含む）としては、「グラバー園」が75.9%と最も多く、これに、「大浦天主堂」（56.7%）と「原爆資料館または平和公園」（48.7%）が続く。平成22年の調査で11位（18.8%）、前回（平成23年）調査で9位の「稲佐山」（36.7%）が、今回も6位と順位を上げてきており、ロープウェイのゴンドラ・リニューアルや世界新三大夜景への認定などが影響しているものと推測される。また、「軍艦島」（7.9%）も12位と前回調査（同5.3%）の14位から順位を上げている。



次に性別をみると、男女間で大きな差は見受けられないなか、男性の割合が比較的高いのが「亀山社中記念館」と「軍艦島」、女性は「大浦天主堂」と「稲佐山」など。

年齢層別では、食が絡む「中華街」が『40代』から下の若い世代に、また「亀山社中記念館」は『40代』～『60代』に比較的人気がある。一方、『70歳以上』では「眼鏡橋」と「孔子廟・中国歴代博物館」の人気が高い。

居住地域別にみると、『九州』など近いほど、主要観光地への訪問比率が低くなる傾向。

来訪回数別では、「グラバー園」で『初めて』と『2回』が8割超、『3回』でも7割超と、長崎観光の主役であることがわかる。一方、「出島」も『初めて』～『4回以上』が各4割台となっており、安定した人気うかがえる。

宿泊数別にみると、夜景観光が主となる「稲佐山」は宿泊有りで飛躍的に割合が増加。また、3泊以上では「長崎歴史文化博物館」や「軍艦島」にまで足を伸ばす傾向は前年（平成23年）調査と変わらないが、今回初めて調査対象とした「高島」「野母崎」「池島」の各遠隔地における割合が高くなる傾向にある。

訪問・訪問予定先（複数回答、n=1,405）

（%）

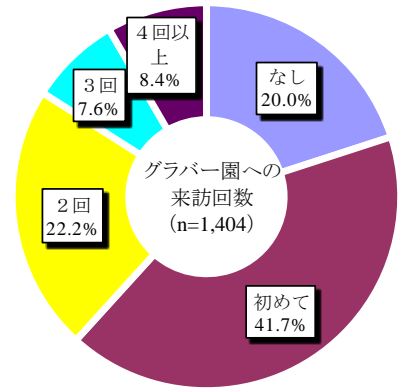
属性		グラ バー 園	大浦 天主 堂	原 爆 資 料 館 ま た	出 島	中 華 街	稲 佐 山	眼 鏡 橋	浦 上 天 主 堂	孔 子 廟 ・ 中 国 歴 代 博 物 館	亀 山 社 中 記 念 館	長 崎 歴 史 文 化 博 物 館	軍 艦 島	伊 王 島	ペン ギ ン 水 族 館	高 島	野 母 崎	外 海	池 島	そ の 他
全体		75.9	56.7	48.7	47.2	43.0	36.7	28.4	23.4	14.0	10.7	9.8	7.9	3.3	2.8	1.1	0.8	0.2	0.1	4.8
性別	男性	71.6	51.8	51.0	45.3	40.4	32.9	28.8	22.0	12.7	12.7	9.3	9.6	3.5	2.4	1.4	1.0	0.3	0.3	4.9
	女性	80.3	61.7	46.3	49.1	45.6	40.6	28.0	24.8	15.4	8.6	10.2	6.2	3.2	3.2	0.9	0.6	0.1	-	4.6
年齢層	20代	70.9	47.7	52.9	40.2	48.6	39.0	27.3	19.5	10.2	9.9	6.3	9.3	3.0	2.1	2.1	-	-	0.3	4.5
	30代	75.2	56.0	47.0	42.7	44.4	38.4	26.8	20.5	14.9	9.9	10.3	9.9	2.6	4.0	1.0	1.7	0.3	0.3	2.3
	40代	77.9	57.6	49.1	54.2	43.9	37.3	26.9	24.7	17.0	11.1	14.0	6.6	3.7	4.4	1.5	0.7	0.4	-	4.1
	50代	82.8	65.6	44.8	51.6	37.6	32.3	30.1	27.2	14.3	13.3	9.7	6.5	2.2	1.4	0.7	1.1	-	-	7.2
	60代	76.1	63.9	47.7	51.0	39.4	38.1	32.3	29.7	14.2	11.0	8.4	7.7	7.7	1.9	-	0.6	-	-	5.8
	70以上	60.6	48.5	51.5	57.6	30.3	21.2	42.4	27.3	21.2	9.1	15.2	6.1	3.0	-	-	-	3.0	-	15.2
居住地	北海道	78.3	65.2	67.4	67.4	45.7	52.2	47.8	45.7	28.3	17.4	19.6	10.9	2.2	2.2	8.7	-	-	4.3	-
	東北	86.5	63.5	75.0	30.8	30.8	30.8	30.8	32.7	9.6	19.2	13.5	5.8	-	1.9	-	-	-	-	9.6
	関東	81.7	64.6	56.9	51.4	43.1	38.0	34.6	31.1	10.6	13.1	6.6	9.1	3.4	0.9	0.6	0.9	-	-	3.7
	中部	79.9	59.0	62.5	43.8	44.4	38.9	36.8	26.4	13.9	13.9	9.7	5.6	2.8	0.7	1.4	-	0.7	-	2.8
	近畿	80.1	64.5	42.4	54.5	47.6	45.0	30.7	25.5	24.7	8.7	15.2	12.1	3.9	2.2	1.3	0.9	-	-	2.2
	中国	80.0	54.8	40.9	46.1	45.2	34.8	18.3	17.4	17.4	11.3	14.8	9.6	-	2.6	-	0.9	-	-	2.6
	四国	90.0	57.5	40.0	62.5	37.5	42.5	20.0	22.5	5.0	7.5	17.5	7.5	10.0	2.5	5.0	-	-	-	-
九州	63.0	43.4	38.0	39.7	41.4	29.9	20.1	13.5	10.0	7.1	5.9	4.9	3.7	5.9	0.7	1.2	0.5	-	8.6	
訪問回数	初めて	81.2	57.4	56.3	49.4	42.6	43.7	36.0	30.6	15.3	12.0	9.4	9.2	3.0	1.8	1.7	-	-	0.2	3.1
	2回	81.8	65.2	46.2	44.6	47.6	33.4	25.3	21.2	15.8	10.9	10.1	7.6	3.3	1.6	0.8	1.1	0.3	-	3.3
	3回	74.1	59.4	48.2	48.8	38.2	39.4	21.2	21.2	12.4	8.2	10.6	2.9	2.9	2.9	0.6	1.8	-	-	2.9
	4回以上	60.8	44.9	39.6	45.6	40.5	27.5	22.8	14.9	10.8	9.8	9.5	8.9	4.4	5.7	0.9	1.3	0.6	0.3	10.4
の長 宿 泊 市 数 で	日帰り	63.2	48.4	51.6	49.5	33.7	9.5	16.8	16.8	5.3	8.4	5.3	5.3	4.2	1.1	2.1	-	-	-	2.1
	1泊	79.0	57.1	51.3	45.8	42.7	40.1	27.8	21.5	12.7	11.4	10.1	5.8	2.8	2.6	0.6	0.3	0.2	-	4.8
	2泊	84.2	67.7	48.4	57.0	48.1	46.2	35.1	31.3	22.2	13.6	11.4	12.7	5.1	2.8	1.6	0.9	0.3	-	3.2
	3泊以上	84.9	64.2	56.6	50.9	45.3	45.3	43.4	41.5	20.8	17.0	20.8	24.5	7.5	9.4	7.5	3.8	-	3.8	7.5

訪問回数

《グラバー園》

グラバー園への来訪回数は「初めて（1回）」が41.7%と最も多く（平成23年調査：42.0%）、次いで、「2回」22.2%（同19.9%）、「3回」17.6%（同10.8%）、「4回以上」8.4%（同9.4%）と続いている。

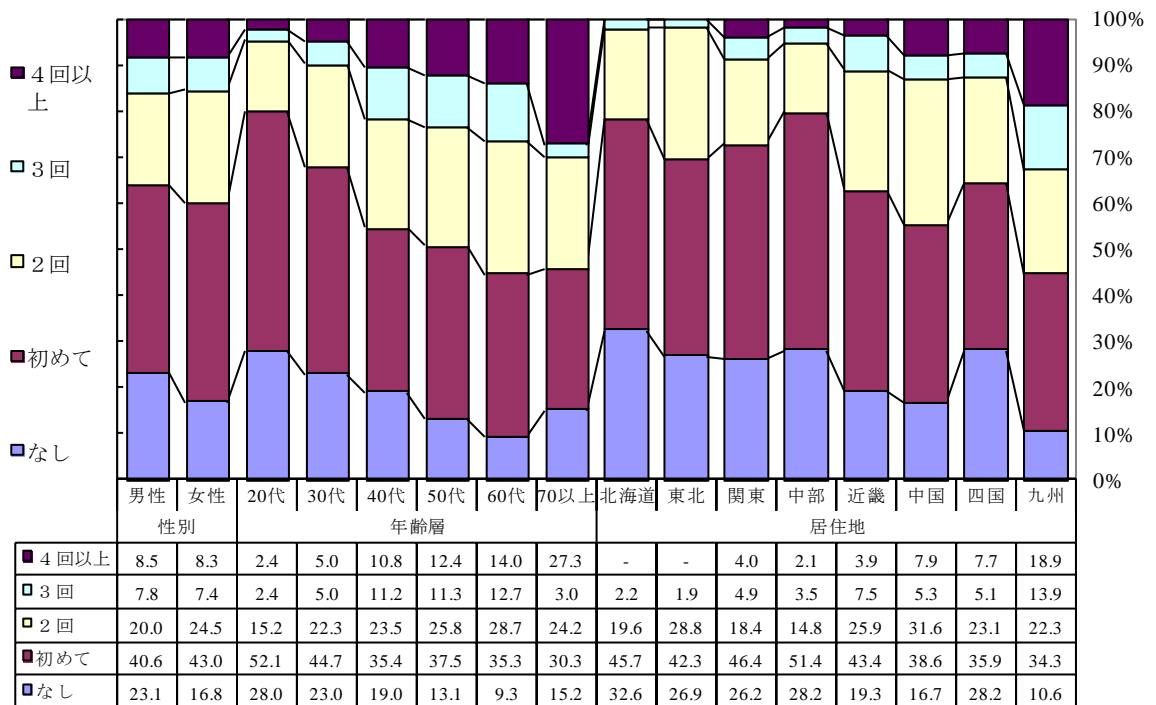
2回以上のリピーター割合は、平成18年調査で54.2%、平成21年調査で46.8%、平成22年調査が38.4%と減少傾向にあるなか、前年調査で40.1%と持ち直したものの、今回の調査では38.2%と再び減少した。



属性別にみると、性別では男性の方が「なし（行かないし、行ったこともない）」の割合が多い。年齢別では、「2回」以上とするリピーターが年齢と共に上昇しており、『60代』では「なし（行かないし、行ったこともない）」の割合が1桁台となっている。

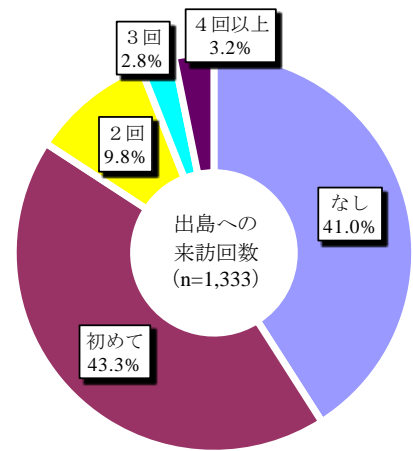
居住地別にみると、「2回」以上とするリピーターは『九州』で5割を超えるが、それ以外の地域では『中国』で4割を超えている。

グラバー園への来訪回数 (n=1,404)



《出島》

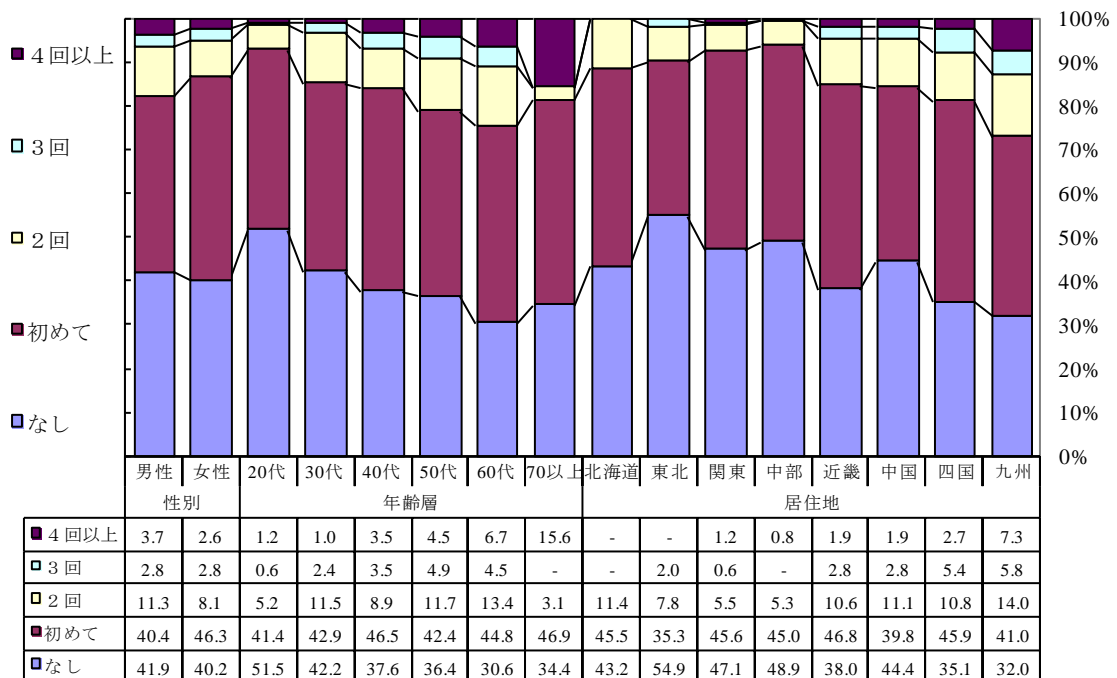
「出島」への訪問回数は、「初めて」が最も多く43.3%（平成22年調査：47.2%）と、前回調査比3.9ポイントの減少。また、「なし（行かないし、行ったこともない）」は41.0%（同35.6%）と増加した。一方、「2回」は9.8%（同9.2%）と前回調査とほぼ変わらないが、「3回」は2.8%（同3.7%）と減少している。また、平成18年調査20.7%、平成21年調査18.4%、平成22年調査12.0%と減少傾向にあった2回以上のリピーター割合は、前年調査で17.1%と持ち直したものの、今回は15.8%と再び減少した。



属性別にみると、性別では男性の方が「2回」以上となるリピーター割合が高い。年齢層別では、「なし」の割合が『20代』で5割を超え、『30代』でも4割超と、若年層においてはあまり訪問地として選択されていない傾向がうかがえる。一方、「2回」以上となるリピーター割合が最も多いのは『60代』の24.6%。

また、居住地別にみると、「なし」の割合が『東北』で5割を超えており、『関東』『中部』でも5割にせまる。また、「2回」以上のリピーター割合では、『九州』でも3割に届いておらず、『東北』『関東』『中部』では1割台。

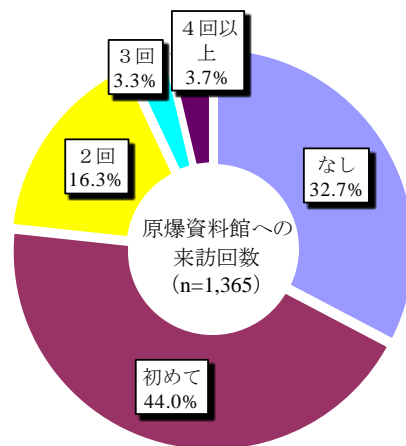
出島への来訪回数 (n=1,333)



《原爆資料館》

原爆資料館の来訪回数は「初めて」が44.0%と最も多く、前回の調査結果(平成23年:46.3%)と比べると、2.3ポイント減少している。一方、「なし(行かないし、行ったこともない)」は32.7%と、前回調査(同31.2%)より1.5ポイントの増加。

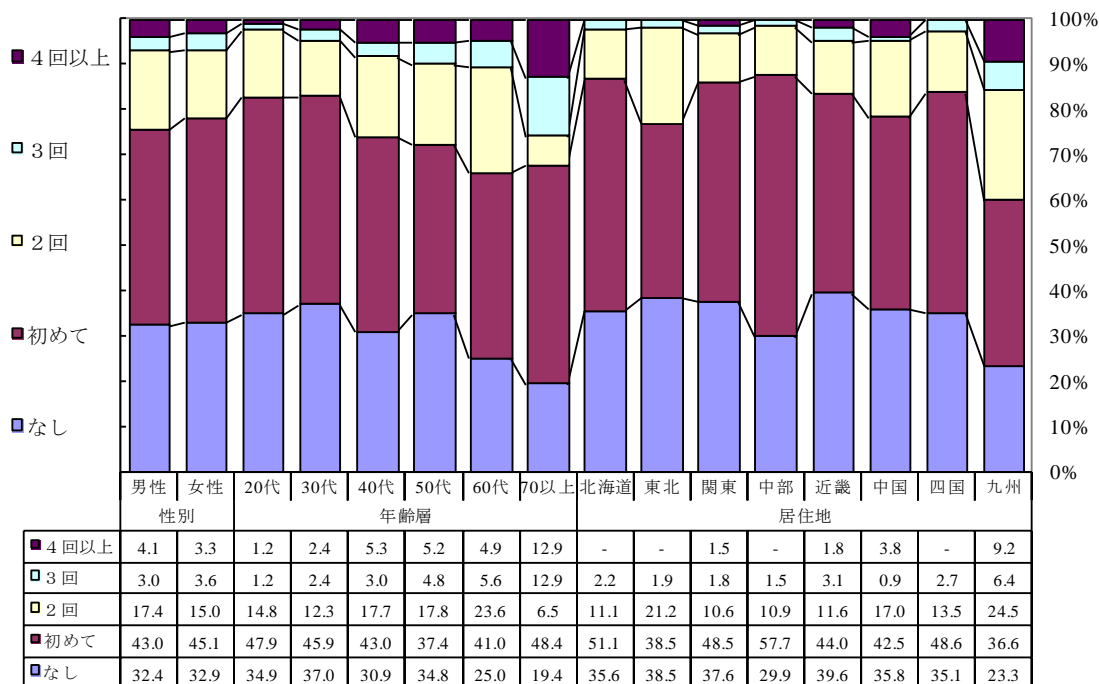
「2回」以上のリピーター割合をみると、平成18年調査32.5%、平成21年調査27.4%、平成22年調査19.3%と減少傾向にあったが、前年調査では22.6%と増加しており、今回調査でも23.3%と前年調査比0.7ポイント増加している。



属性別にみると、年齢層別では、『50代』を除く年代で「初めて」の割合が4割台と高く、年代が上がるほど「2回」以上のリピーター割合が高くなっている。

居住地別にみると、『北海道』と『中部』で「初めて」の割合が5割を超えており、特に『中部』では6割近くとなっている。

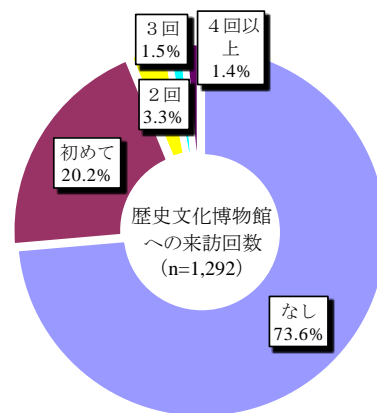
原爆資料館への来訪回数 (n=1,365)



《長崎歴史文化博物館》

長崎歴史文化博物館の来訪回数では「初めて」が20.2%と最も多いが、「なし（行かないし、行ったこともない）」の割合も73.6%と大きい。

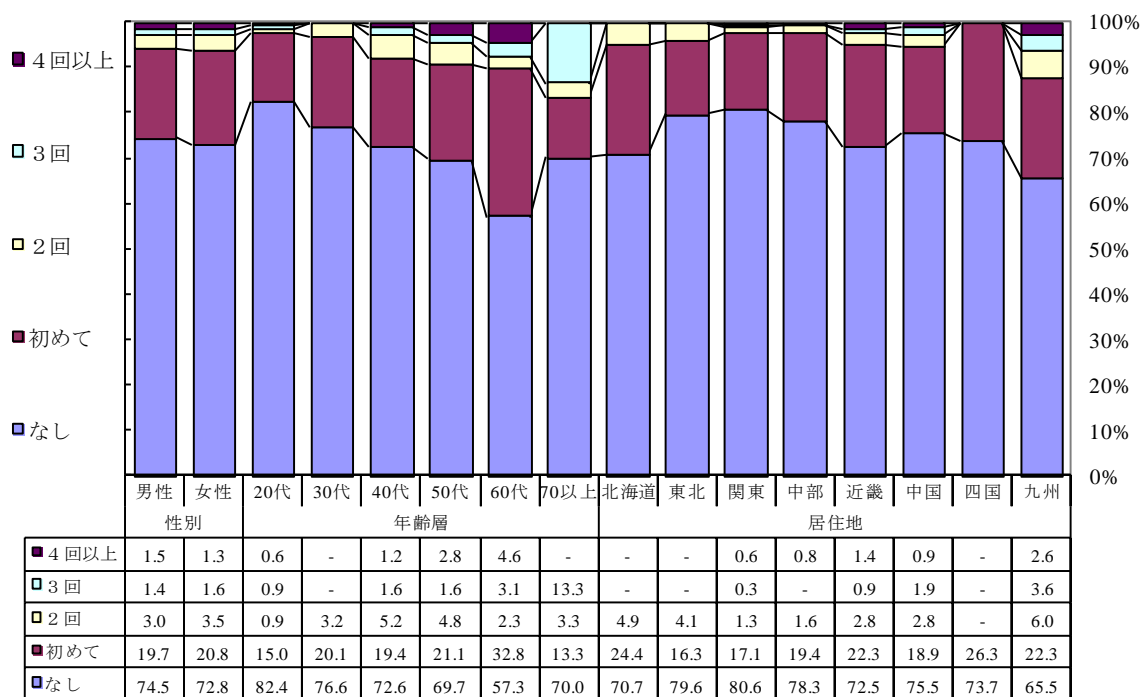
「2回」以上のリピーター割合も6.2%と低く、“博物館”という施設の性格上、特別展など企画展に左右される部分も大きいものと推察される。



属性別にみると、年齢層別では、ほとんどの年代で「なし（行かないし、行ったこともない）」が7割弱～8割台となっているなか、「初めて」が3割台である『60代』が唯一5割台となっている。また、『70代以上』では「2回」以上のリピーター割合が15%を超えている。

居住地別にみると、「なし（行かないし、行ったこともない）」が『九州』を除く全ての地域で7、8割台であり、『九州』では唯一「2回」以上のリピーター割合が10%を超えている。

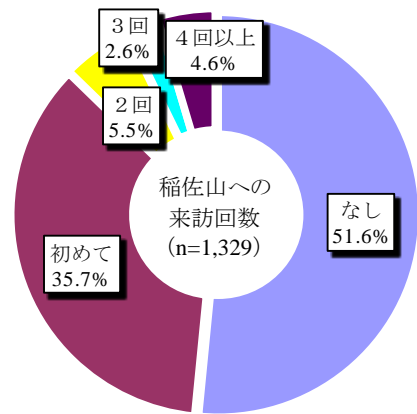
長崎歴史文化博物館への来訪回数 (n=1,292)



《稲佐山》

稲佐山の来訪回数では「初めて」が 35.7%と最も多いが、「なし（行かないし、行ったこともない）」も 51.6%と 5 割を超えている。

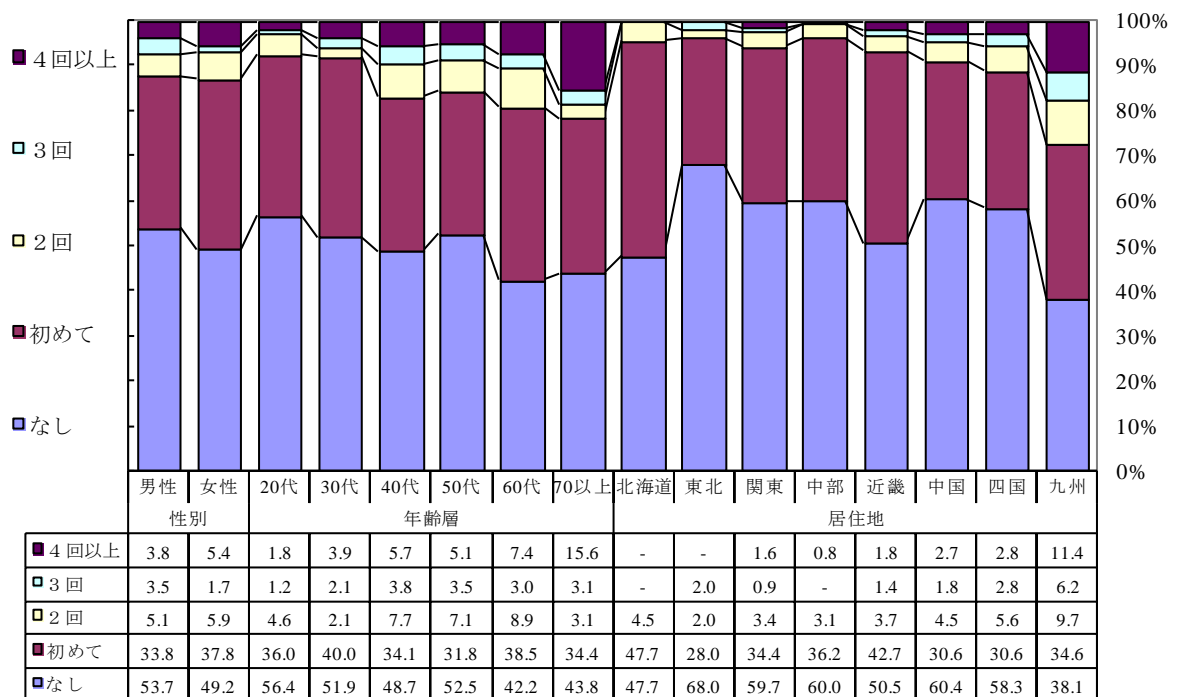
「2 回」以上のリピーター割合は 12.7%だが、「4 回以上」の割合は 4.6%と、本調査における 6 つの対象施設のなかで、グラバー園に次ぐ高割合となっており、夜景が魅力である稲佐山へは根強いリピーターがいることがうかがえる。



属性別にみると、年齢層別では「2 回」以上のリピーター割合は年代が上がるほど高くなる傾向にあり、『70 以上』では 2 割を超えている。

居住地別にみると、「なし（行かないし、行ったこともない）」が『東北』と『中部』、『中国』では 6 割超となっているが、地元『九州』での「2 回」以上のリピーター割合は 3 割近くとなっている。

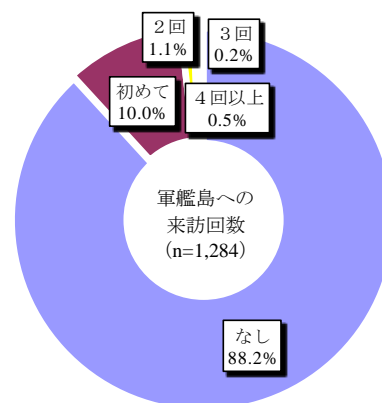
稲佐山への来訪回数 (n=1,329)



《軍艦島》

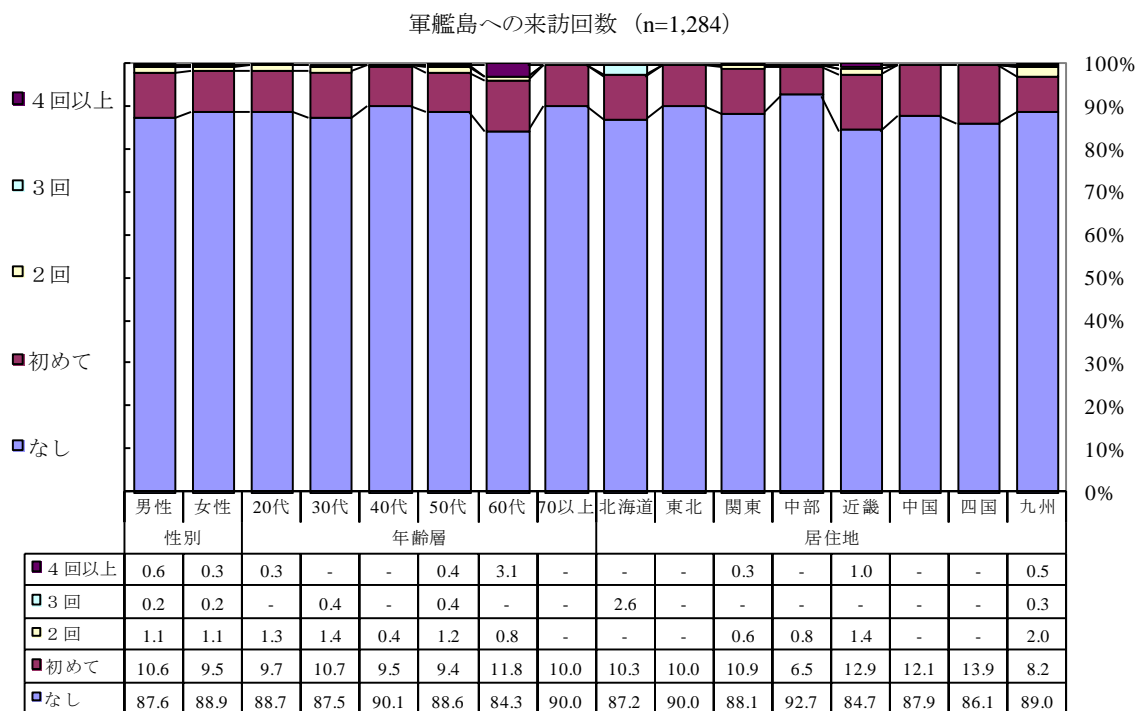
軍艦島の来訪回数では「初めて」が10.0%の一方、「なし（行かないし、行ったこともない）」は88.2%と、9割近くに達している。

「2回」以上のリピーター割合も1.8%と低く、上陸者数が30万人を突破するなど、長崎市を代表する観光施設として認識されつつあるなか、今後はリピーター対策が重要となってくるものと推察される。



属性別にみると、年齢層別では全世代で「なし（行かないし、行ったこともない）」が8、9割を占めるなか、『60代』で「4回以上」の割合が3.1%となっている。これは元島民や炭鉱全盛時代を体験している人が多い年代であることも影響しているものと推測される。

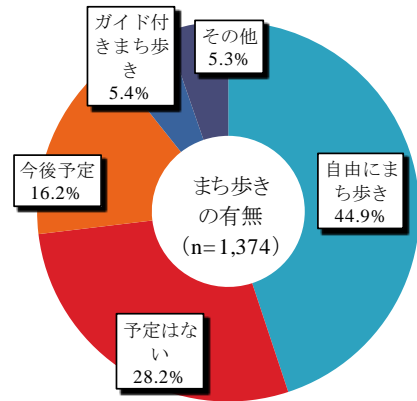
居住地別でも、全地域で「なし（行かないし、行ったこともない）」が8、9割を占めるなか、『北海道』で「3回」の割合が2.6%となっている。これは北海道内に旧産炭地域が多いことも影響しているものと思われる。



【まち歩きの有無や祭り・行事の認知度】

○まち歩き（長崎さるく）の有無

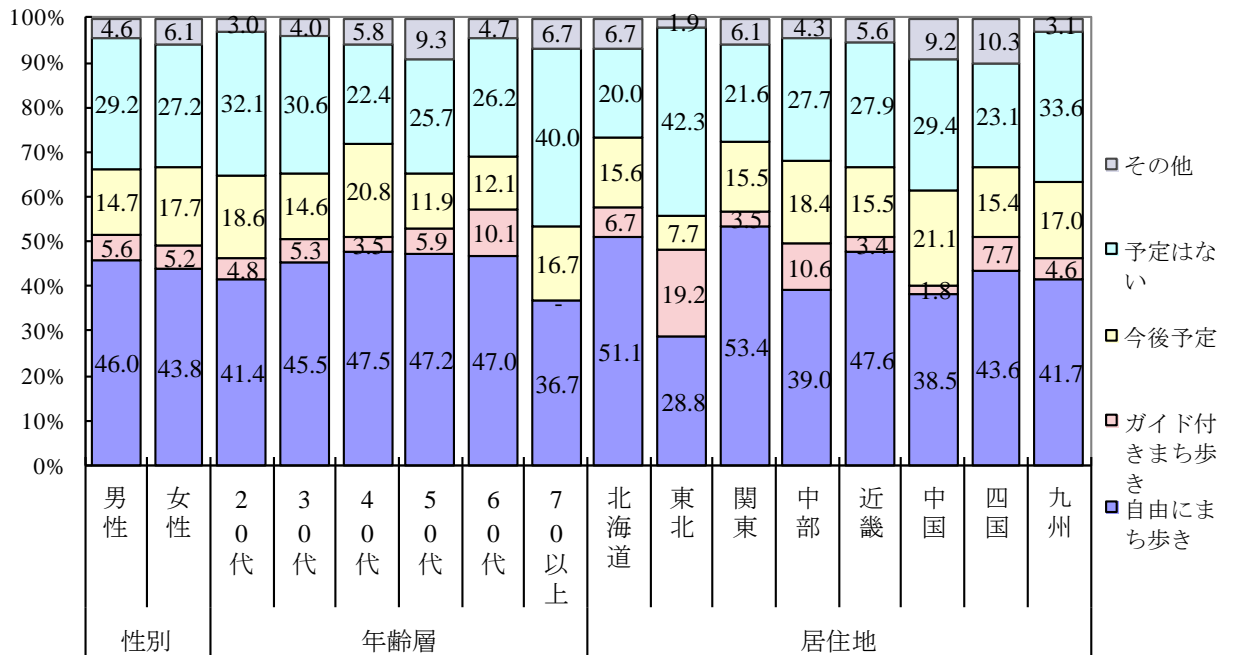
長崎さるくに代表されるまち歩き観光体験の有無をみると、「自由にまち歩き」（44.9%）と「ガイド付きまち歩き」（5.4%）を合わせて50.3%と5割を超え、長崎市を訪れた人の約半数がまち歩き観光を楽しんでいることがわかる。一方、「予定はない」（28.2%）と「今後予定」（16.2%）を合わせると44.4%と4割を超えており、まち歩き観光にはまだPRする余地が残されているとも推察される。



年齢別にみると、『60代』で「ガイド付きまち歩き」の割合が比較的高い。なお、高齢者である『70代以上』で「予定はない」の4割は、まち歩き観光ではある意味当然の結果ともいえる。

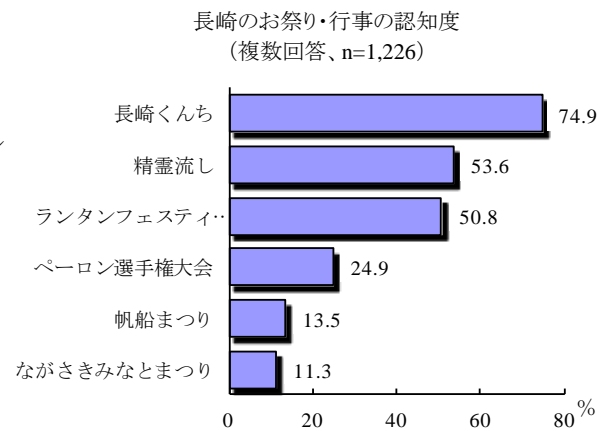
居住地別では、『東北』で「ガイド付きまち歩き」の割合が2割近くと比較的高く、「自由にまち歩き」が他地域と比較して唯一の2割台となっている。

まち歩きの有無 (n=1,374)



○祭りや行事の認知度

長崎市の祭りや行事の認知度をみると、「長崎くんち」が74.9%と最も高く（平成23年調査：82.8%）、次いで「精霊流し」53.6%（同62.7%）、「ランタンフェスティバル」50.8%（同55.4%）。しかしながら、この上位3つはいずれも前年調査よりポイントが低下している。続いて「ペーロン選手権大会」24.9%（同22.3%）と「長崎帆船まつり」13.5%（同12.2%）、「ながさきみなとまつり」11.3%（同13.0%）となっている。



年齢層別にみると、「長崎くんち」は『20代』以外の年代に認知度が高い。また「精霊流し」と「ランタンフェスティバル」もほぼ全世代に認知されているが、「ランタンフェスティバル」は、『50代』以上から認知割合が低下傾向にある。

居住地別では、「くんち」に次いで「精霊流し」も『近畿』と『四国』を除いた地域で5割超の認知度があるが、「ランタンフェスティバル」は8割近い認知度の地元『九州』を除くほとんどの地域で3~4割台となっており、『東北』では2割台にとどまる。その他、「ペーロン」が『近畿』で3割台、『北海道』と『四国』を除く地域が2割台と健闘。

長崎のお祭り・行事の認知度（複数回答、n=1,226）

(%)

属性		長崎くんち	精霊流し	ランタンフェスティバル	ペーロン選手権大会	帆船まつり	ながさきみなとまつり
全体		74.9	53.6	50.8	24.9	13.5	11.3
性別	男性	75.8	51.2	45.4	27.0	13.7	11.2
	女性	73.9	56.0	56.1	22.8	13.4	11.3
年齢層	20代	55.8	51.1	54.3	10.9	10.5	10.1
	30代	71.2	42.3	60.0	16.5	12.3	7.7
	40代	81.4	63.2	55.8	29.8	15.7	14.5
	50代	82.6	62.0	42.2	34.1	13.2	10.9
	60代	91.2	47.8	38.2	42.6	11.8	10.3
	70以上	96.4	53.6	25.0	21.4	28.6	10.7
居住地	北海道	67.6	56.8	37.8	13.5	8.1	2.7
	東北	70.5	56.8	22.7	25.0	9.1	6.8
	関東	76.1	57.9	37.0	21.9	7.7	7.7
	中部	76.5	53.0	31.3	21.7	5.2	2.6
	近畿	72.7	47.5	41.4	30.3	4.5	5.6
	中国	65.7	51.5	44.4	24.2	12.1	9.1
	四国	61.3	48.4	32.3	16.1	9.7	12.9
	九州	79.7	54.8	79.9	27.0	27.0	21.3

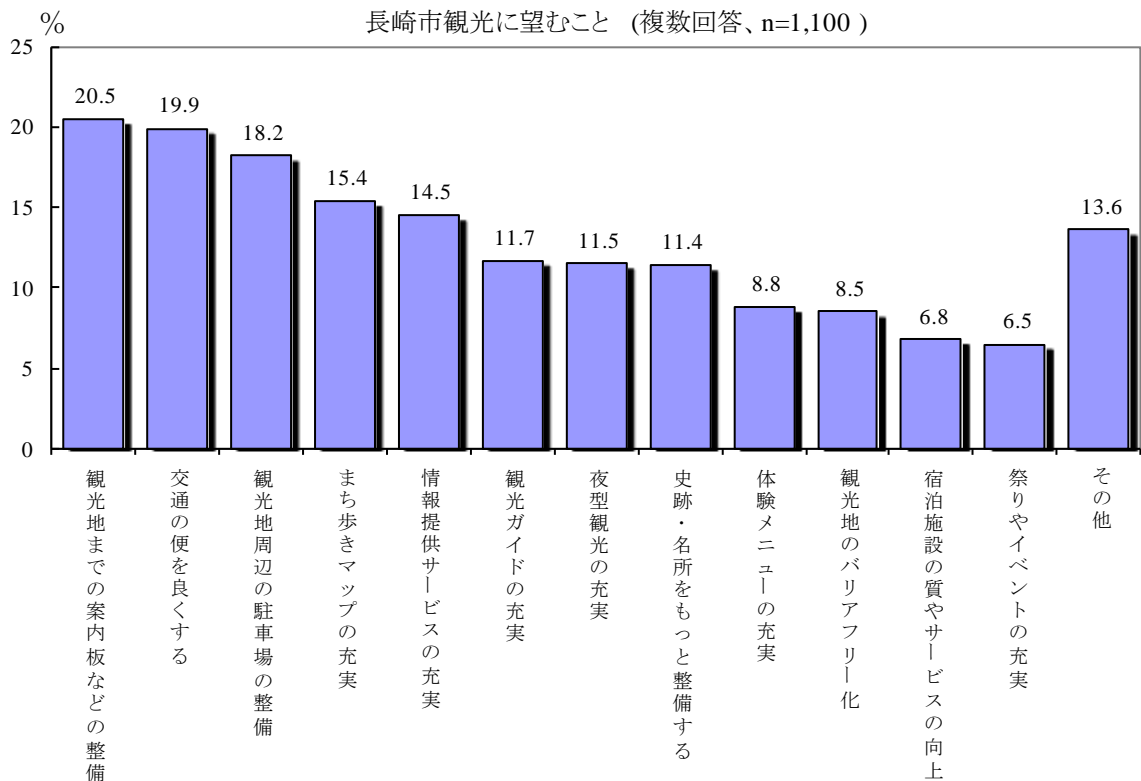
【市内観光に対する要望と「食」「土産」の傾向】

○長崎市観光に望むこと

長崎市がより良い観光地になるために望むこと（複数回答）としては、「観光地までの案内板などの整備」（20.5%）と「交通の便を良くする」（19.9%）が1、2位と、前回調査（平成23年）と変わらず、3位が「観光地周辺の駐車場の整備」（18.2%）とハード面への注文が上位を占めている。次に、「まち歩きマップの充実」（15.4%）、「情報提供サービスの充実」（14.5%）とソフト面への注文が続く。

年代別にみると、「観光地までの案内板などの整備」は『50代』以上の年代で2割を超えている。一方、「まち歩きマップの充実」が『60代』以上で割合が高く、『70歳以上』は3割台となっている。また、「夜型観光の充実」の割合が『70歳以上』で2割を超えている。

居住地別では、「観光地までの案内板などの整備」が『北海道』で3割近くとなっており、「観光地周辺の駐車場の整備」は、自家用車利用の多い『四国』『九州』の割合が高い。また、「情報提供サービスの充実」は『関東』で2割を超えている。

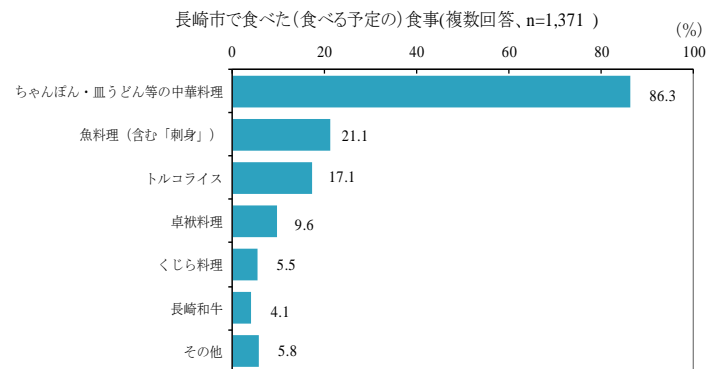


長崎市観光に望むこと(複数回答、n=1,100)

属性		観光地までの案内板	交通の便を良くする	観光地周辺の駐車場の整備	まち歩きマップの充実	情報提供サービスの充実	観光ガイドの充実	夜型観光の充実	史跡・名所をもっと整備する	体験メニューの充実	観光地のバリアフリー化	宿泊施設の質やサービスの向上	祭りやイベントの充実	その他
全体		20.5	19.9	18.2	15.4	14.5	11.7	11.5	11.4	8.8	8.5	6.8	6.5	13.6
性別	男性	17.8	21.4	19.6	16.4	12.8	11.8	11.9	12.7	8.2	6.8	7.1	6.8	12.7
	女性	23.2	18.4	16.7	14.3	16.1	11.7	10.9	10.0	9.5	10.4	6.5	6.3	14.7
年齢層	20代	19.9	22.0	14.9	14.9	17.7	10.6	13.8	8.5	9.6	6.4	5.3	7.1	13.1
	30代	17.8	21.9	15.8	11.3	13.4	10.5	9.7	10.9	10.9	7.3	5.3	7.3	13.8
	40代	18.3	19.7	26.6	17.0	12.8	12.4	10.6	9.6	10.1	9.2	10.6	5.0	10.6
	50代	25.2	17.5	16.5	13.1	13.1	13.6	11.2	14.6	6.3	11.7	6.8	4.9	16.0
	60代	23.5	18.6	22.5	27.5	14.7	13.7	8.8	13.7	5.9	10.8	8.8	5.9	15.7
	70以上	27.8	5.6	5.6	33.3	5.6	11.1	22.2	16.7	-	11.1	5.6	-	33.3
居住地	北海道	29.7	13.5	8.1	10.8	18.9	10.8	5.4	13.5	5.4	13.5	8.1	10.8	13.5
	東北	15.4	12.8	17.9	12.8	15.4	12.8	10.3	15.4	7.7	7.7	5.1	2.6	10.3
	関東	21.2	21.6	12.8	17.9	20.1	11.0	11.0	13.6	7.0	10.3	5.1	4.4	15.8
	中部	19.4	16.7	15.7	15.7	18.5	10.2	14.8	6.5	11.1	5.6	4.6	10.2	12.0
	近畿	22.1	23.2	14.4	17.1	10.5	13.8	13.3	9.4	8.3	7.2	9.4	4.4	15.5
	中国	13.6	14.8	14.8	17.0	11.4	17.0	10.2	10.2	11.4	10.2	5.7	6.8	10.2
	四国	14.3	17.9	32.1	7.1	3.6	7.1	10.7	3.6	3.6	7.1	14.3	14.3	14.3
九州	21.2	20.3	26.7	13.6	12.1	10.6	10.9	12.1	10.6	7.9	7.3	7.3	11.8	

○「食」の傾向

長崎市で食べた（食べる）料理を尋ねたところ、「ちゃんぽん・皿うどん等の中華料理」が86.3%と他を圧倒。次いで「魚料理」（21.1%）と「トルコライス」（17.1%）がかろうじて2桁台となっており、「卓袱料理」（9.6%）と「くじら料理」（5.5%）、「長崎和牛」（4.1%）はいずれも1桁台にとどまった。



性別では、「卓袱料理」で女性の割合が高い。年齢層別にみると、「ちゃんぽん・皿うどん等の中華料理」の割合が各年代において圧倒的に高く、また「トルコライス」は若年層に「卓袱料理」は『40代』以上で割合が高い。一方、『70歳以上』では「長崎和牛」の割合が比較的高かった。

居住地別でも、「ちゃんぽん・皿うどん等の中華料理」が全地域で8割台と圧倒的ななか、『関東』では「魚料理」が3割近く、『北海道』と『近畿』・『四国』にて「トルコライス」が2割台と健闘している。

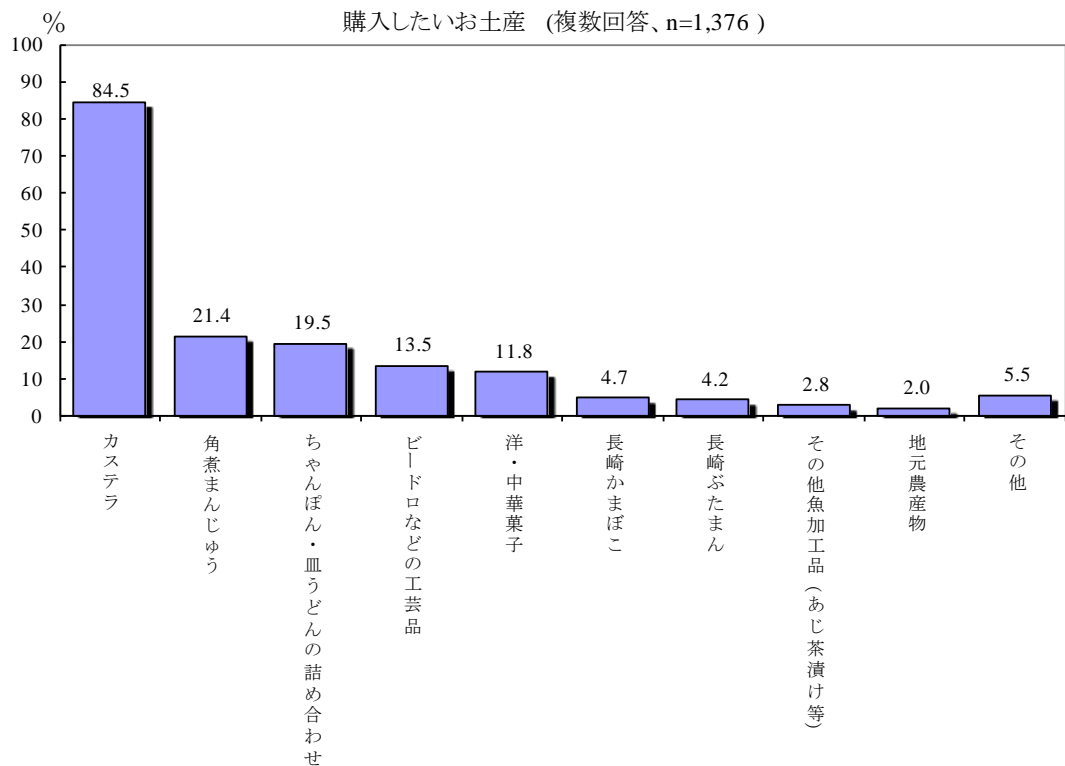
長崎市で食べた（食べる予定の）食事(複数回答、n=1,371)

属性		ちゃんぽん等の中華料理・皿うどん	魚料理(含む「刺身」)	トルコライス	卓袱料理	くじら料理	長崎和牛	その他
全体		86.3	21.1	17.1	9.6	5.5	4.1	5.8
性別	男性	86.9	21.2	16.3	7.9	5.5	3.5	4.6
	女性	85.7	21.0	18.0	11.2	5.5	4.7	7.1
年齢層	20代	84.2	20.6	20.9	3.0	5.8	3.6	6.7
	30代	88.1	20.1	20.1	7.8	4.8	3.8	3.1
	40代	87.4	23.3	20.2	11.5	4.6	1.9	5.0
	50代	86.7	19.8	13.7	12.6	7.6	5.0	6.5
	60代	84.8	24.1	6.9	18.6	4.1	6.2	8.3
	70以上	76.7	20.0	-	16.7	6.7	13.3	13.3
	居住地	北海道	88.4	14.0	27.9	16.3	11.6	2.3
東北		88.2	17.6	7.8	23.5	5.9	3.9	9.8
関東		89.1	27.2	14.5	12.7	6.2	3.8	4.7
中部		86.5	21.3	15.6	9.2	3.5	7.8	5.7
近畿		88.9	25.2	21.7	10.6	7.1	4.4	5.8
中国		88.1	14.7	12.8	3.7	5.5	1.8	9.2
四国		80.0	10.0	22.5	12.5	12.5	2.5	10.0
九州	82.8	17.2	17.5	5.7	3.2	3.4	5.7	

○「土産」の傾向

長崎市でどのような土産を購入したいのかを尋ねたところ、「カステラ」が84.5%と図抜けており、次いで「角煮まんじゅう」が21.4%と唯一の2割台となっている。以下「ちゃんぽん・皿うどんの詰め合わせ」(19.5%)、「ビードロなどの工芸品」(13.5%)、「洋・中華菓子」(11.8%)と続く。

性別をみると、「カステラ」で男女の差はあまりないが、2～5位の商品「角煮まんじゅう」～「洋・中華菓子」まででは一貫して女性の割合が高い。年齢層別では、「角煮まんじゅう」が比較的若い年代の割合が高く、「長崎かまぼこ」が『60代』で、「その他魚加工品」と『地元農産物』が『70歳以上』でそれぞれ割合が比較的高い。居住地別でも「カステラ」が圧倒しており、『中部』と『中国』・『四国』では9割を超えているが、地元『九州』では7割台にとどまった。その他「角煮まんじゅう」が『北海道』と『関東』・『九州』で2割台、「ちゃんぽん・皿うどんの詰め合わせ」が『北海道』と『四国』で比較的割合が高かった。



購入したいお土産(複数回答、n=1,376)

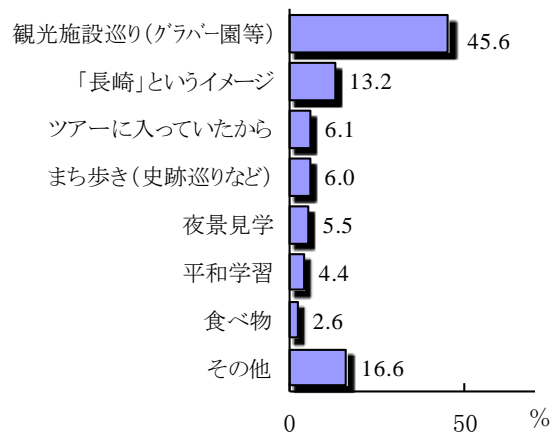
属性		カステラ	角煮まんじゅう	ちやんの詰め合わせ	ビードロなどの工芸品	洋・中華菓子	長崎かまぼこ	長崎ぶたまん	その他魚加工品(あじ茶漬け等)	地元農産物	その他
全体		84.5	21.4	19.5	13.5	11.8	4.7	4.2	2.8	2.0	5.5
性別	男性	83.9	16.8	15.3	10.5	9.1	4.3	3.0	2.7	1.7	5.8
	女性	85.2	26.1	23.8	16.6	14.7	5.1	5.4	2.9	2.2	5.1
年齢層	20代	86.6	27.1	21.4	10.1	10.4	1.8	4.2	1.5	0.6	3.6
	30代	86.9	21.2	20.9	16.5	14.5	4.4	2.4	3.4	1.3	4.0
	40代	82.8	22.1	17.9	14.1	11.5	4.6	6.1	2.3	1.9	5.0
	50代	82.5	19.0	18.6	15.7	12.8	4.7	6.2	2.6	4.0	7.7
	60代	85.3	12.6	20.3	9.1	7.7	11.9	1.4	4.9	1.4	8.4
	70以上	77.4	16.1	16.1	19.4	12.9	9.7	6.5	12.9	9.7	9.7
居住地	北海道	84.4	26.7	44.4	11.1	11.1	6.7	4.4	-	4.4	2.2
	東北	87.8	10.2	26.5	12.2	10.2	2.0	4.1	2.0	2.0	8.2
	関東	84.8	21.0	21.3	12.0	9.9	5.2	4.4	2.6	3.8	5.0
	中部	91.5	19.9	22.7	14.2	12.8	6.4	5.0	5.7	-	1.4
	近畿	87.7	16.2	18.0	13.6	14.0	7.0	2.2	3.1	2.2	7.9
	中国	90.5	17.2	15.5	14.7	9.5	-	1.7	0.9	0.9	5.2
	四国	92.3	10.3	35.9	10.3	10.3	2.6	2.6	-	-	10.3
	九州	77.3	29.2	13.6	15.4	13.1	4.3	5.3	3.0	1.3	5.8

【長崎市を旅行先に決めた理由・目的】

長崎市を今回の旅行先に決めた理由や目的は、「観光施設巡り」が最も多く 45.6%。次点が「長崎というイメージ」が 13.2%となっている。以下、「ツアーに入っていたから」(6.1%)、「まち歩き(史跡巡りなど)」(6.0%)「夜景見学」(5.5%)と続く。

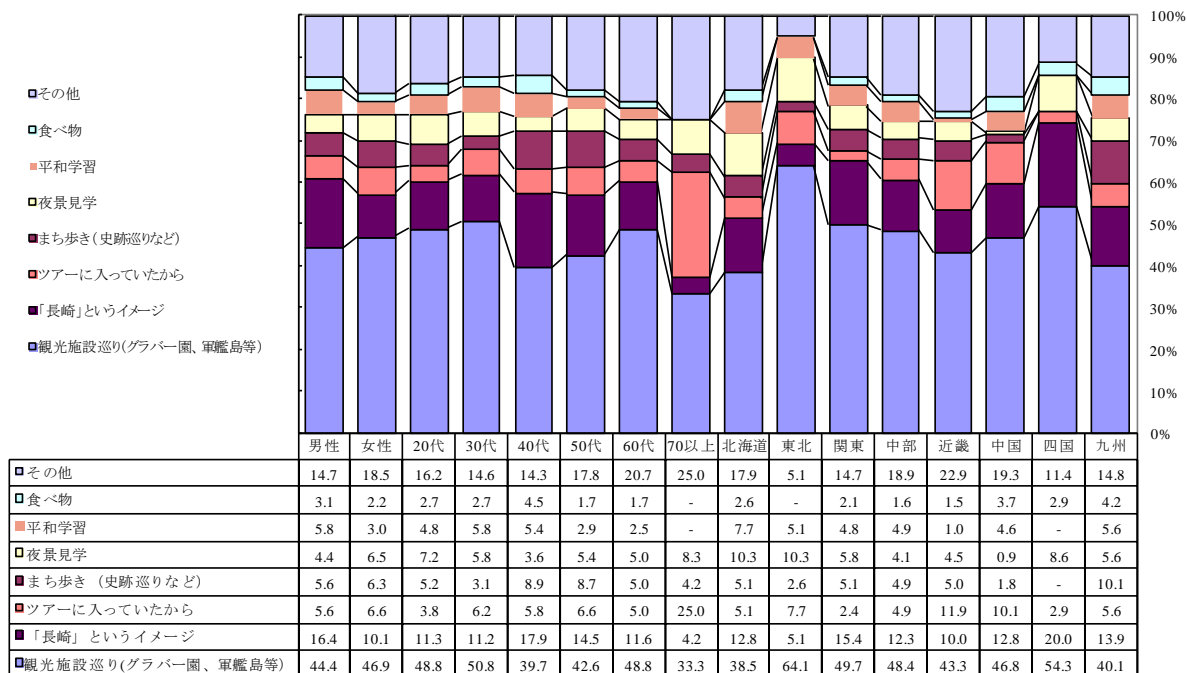
また「その他」の回答には、TVアニメ連動企画《名探偵コナンミステリーツアー》や《友人・知人がいる》《結婚式》などがあげられていた。

長崎市を旅行先に決めた理由・目的
(n=1,190)



属性別では、『70歳以上』で「ツアーに入っていたから」との割合が比較的高い。また、居住地別では、『北海道』と『東北』で「夜景見学」の割合が、『近畿』と『中国』で「ツアーに入っていたから」、『九州』で「まち歩き」の割合がそれぞれ他地域より高い。

長崎市を旅行先に決めた理由・目的 (n=1,190)



【1人あたりの旅行費用】

○旅行全体の費用

観光目的で来訪した人について、旅行全体の費用の1人あたり平均金額をみると、52,967円（平成23年調査：55,867円）。このうち「日帰り」旅行では15,072円（同13,710円）、「宿泊」旅行の場合は56,839円（同58,949円）である。平成23年の調査に比べ「全体」と「宿泊」旅行の金額は減少しているが、「日帰り」旅行については増加しており、「日帰り」旅行を充実させる傾向がうかがえる。

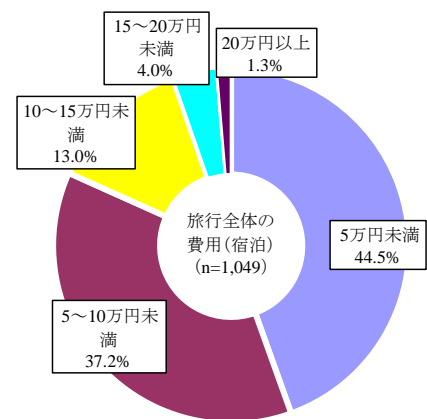
宿泊の日程別では、1泊2日が34,133円（同36,017円）に対し、2泊3日は61,071円（同57,947円）と約27千円の差、3泊4日では73,544円（同77,326円）と2泊3日との差が約12千円と、泊数が増えるにつれてその差は縮小する傾向にある。

属性別にみると、年齢別では収入が生活費に対し比較的余裕がある「30代」が5万円台。時間・収入ともに比較的安定している「50代」以上で6万円台となっている。また居住地別では、「北海道」が8万円超、「東北」では約10万円など、遠方、かつ長崎へ直接アクセスする手段が限られている地域ほど金額が大きい。

また、宿泊における旅行全体費用を金額階層別にみると、「5万円未満」が44.5%（同47.7%）と最も多く、次いで「5～10万円未満」が37.2%（同35.7%）となっており、平成23年調査と比べ「5万円未満」の割合が低下し、「5～10万円未満」の層は昨年並みだったため、10万円からの層が増加している。

観光目的で来訪した人の旅行全体の費用（n=1,160）
（円）

属性	旅行全体の費用の平均額	〈参考〉バック料金の平均
全体	52,967	54,367
旅行日程	日帰り	5,800
	宿泊	55,471
	1泊2日	34,583
	2泊3日	62,515
	3泊4日	70,000
	4泊5日	41,000
	5泊6日以上	87,500
性別	男性	60,169
	女性	50,029
年齢層	20代	41,661
	30代	53,341
	40代	46,813
	50代	59,348
	60代	74,517
	70以上	60,000
居住地	北海道	77,375
	東北	108,556
	関東	69,500
	中部	58,095
	近畿	45,860
	中国	46,714
	四国	32,750
	九州	20,584



○長崎市における消費額

観光目的で来訪した人の長崎市内における消費額は、1人あたりの平均で30,362円（平成23年調査：26,035円）だった。費目別の内訳をみると、「宿泊代」が10,975円（同11,335円）と最も大きく、次いで「飲食代」6,138円（同4,559円）、「おみやげ・買物代」6,094円（同5,302円）、「入場・観覧料」2,288円（同1,619円）、「交通費」1,934円（同1,434円）、となっており、平成23年の調査結果と比べて「宿泊代」以外は軒並み増加している。

次に、市内宿泊数別の消費額をみると、「0泊（日帰り）」13,828円（同14,301円）、「1泊」28,123円（同23,462円）、「2泊」36,192円（同32,315円）、「3泊以上」52,418円（同47,896円）となっている。平成23年の調査結果と比べると、「日帰り」以外は増加しており、宿泊を伴う旅行にはある程度お金をかける傾向が見受けられる。

観光目的で来訪した人の長崎市内における一人当たり消費額

（長崎市内での宿泊数別）

（円）

長崎市内での宿泊数	交通費	おみやげ・買物代	飲食代	宿泊代	入場・観覧料	その他	計
0泊(日帰り)	1,552	5,028	3,482	—	1,551	2,214	13,828
1泊	2,052	5,712	6,057	8,564	2,370	3,368	28,123
2泊	2,049	7,074	7,968	15,526	2,439	1,136	36,192
3泊以上	2,933	9,857	13,109	19,788	4,230	2,500	52,418
全体の平均	1,934	6,094	6,138	10,975	2,288	2,934	30,362

長崎市内での消費額を居住地（発地）別にみると、「九州」の24,322円（同20,874円）から「北海道」の46,852円（同39,547円）まで幅があり、これは概ね市内での滞在時間（宿泊数）や『遠方から来崎した』という、観光客の気持ちの差を反映したものであろうと考えられる。

観光目的で来訪した人の長崎市内における一人当たり消費額

（居住地別）

（円）

居住地	交通費	おみやげ・買物代	飲食代	宿泊代	入場・観覧料	その他	計
北海道	1,970	11,529	8,391	20,300	2,662	2,000	46,852
東北	1,678	8,217	6,554	12,375	2,708	500	32,031
関東	2,045	6,669	7,142	11,652	2,566	4,609	34,685
中部	1,775	6,790	6,320	10,161	2,444	2,500	29,990
近畿	1,749	5,933	6,983	11,629	2,379	1,077	29,749
中国	1,787	5,416	5,739	9,533	2,357	4,429	29,259
四国	2,171	6,767	5,825	7,573	1,986	0	24,322
九州	2,057	4,601	4,621	9,833	1,824	3,407	26,344



長崎市経済局文化観光部観光政策課